

北大時報

August 2011

No.689

平成23年

8

**北海道大学ソウルオフィス開所式・
記念講演会及び特別講演会の実施**

**北キャンパス総合研究棟6号館
竣工式典・祝賀会を挙行**

お知らせ

●被扶養者の要件の確認を行います



ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ (2011. 7. 30, 関連記事28～31頁に掲載)

目次

全学ニュース

- 北海道大学ソウルオフィス開所式・記念講演会及び特別講演会の実施…………… 1
- アジア・太平洋環境大学院コンソーシアムの理事会及び総会に出席…………… 3
- 情報基盤センターが大韓民国 漢城大学校芸術大学と部局間交流協定を締結…………… 4
- 北キャンパス総合研究棟6号館（生物機能分子研究開発プラットフォーム）竣工式典・祝賀会を挙…………… 5
- 平成23年度（財）北海道大学クラーク記念財団助成事業の決定…………… 6
- 北大フロンティア基金…………… 10
- 北海道大学 緑のピアガーデン2011を開催…………… 12
- 「環境広場さっぽろ2011」に出展…………… 13
- 北海道大学入試説明会を実施…………… 14
- 平成23年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施…………… 14
- 「米国大学院留学説明会」、「交換留学説明会」及び「フィンランド留学説明会」を開催…………… 15
- 留学生と地域との交流「ホリデー イン 日高」を開催…………… 16

部局ニュース

- 鈴木 章名誉教授のレリーフ像をお披露目…………… 18
- 公共政策大学院が網走市との連携協定を締結…………… 19
- メディア・コミュニケーション研究院公開講座「『公共』の多様性と新しい流れ」が終了…………… 20
- グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」主催 国際サマースクール2011を開催…………… 21
- スラブ研究センターが平成23年度夏期シンポジウム開催…………… 22
- 文学研究科FD研修会「コミュニケーション支える学生と教師のいい関係ーアサーションを手がかりにー」…………… 24
- 経済学研究科で韓国延世大学 韓 淳九 教授によるセミナーを開催…………… 25
- 水産学部が函館港まつり「ワッショイはこだて」に参加…………… 26
- 「平成23年度薬用植物園見学会」を開催…………… 27
- ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～
 - ・「MISSION：遺伝子コードを解読せよ！」を開催…………… 28
 - ・「体験！ベリー研究の最前線“君も育種家になろう！”」を開催…………… 29
 - ・「小樽の海は今！～ゆたかな海の森をもとめて～」を開催…………… 30

- 北海道大学納骨堂慰霊式…………… 32
- 工学部で「平成23年度救急救命講習会」を開催…………… 33
- 北海道大学病院薬剤部・薬学部合同セミナー「災害派遣を経験して～医療チームにおける病院薬剤師の役割」を開催…………… 34
- 北海道大学病院で「第45回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施…………… 35
- 歯学研究科で第1回消防訓練を実施…………… 36
- 総合博物館 カルチャーナイト2011に参加「チェンパロと星空の夕べ」を開催…………… 37
- 企画展示「Lepidoptera 空を舞う昆虫たち チョウとガの世界」を開催…………… 38
- 総合博物館で土曜市民セミナー「葉に潜る昆虫ーホソガ」を開催…………… 39
- 星野勇三・星野達三旧蔵資料を大学文書館で受贈…………… 40
- 宮川儀八旧蔵資料を大学文書館で受贈…………… 41

お知らせ

- 被扶養者の要件の確認を行います…………… 42

レクリエーション

- 平成23年度学内バレーボール大会の開催…………… 42
- 平成23年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催…………… 44
- 教職員テニス大会の開催…………… 46

研修

- 平成23年度国立大学法人北海道大学会計実務研修…………… 51
- 平成23年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（ACCESS初級）…………… 51

表敬訪問

- …………… 52

諸会議の開催状況

- …………… 53

学内規程

- …………… 53

人事

- 新任教授紹介…………… 55

訃報

- 名誉教授 池上 二良 氏…………… 56

表紙：ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～（2011.7.30）

裏表紙：北の息吹② テシオコザクラ（*Primula takedana*）

全学ニュース

北海道大学ソウルオフィス開所式・記念講演会 及び特別講演会の実施

8月2日(火)、北海道大学ソウルオフィス開所式・記念講演会を韓国ソウル市内のソウル教育文化会館で開催しました。

本オフィスは、本学2番目の全学的海外拠点として、韓国ソウル市内に、4月1日に開設したもので、本学と韓国の諸大学等との学生交流、研究者交流の促進のための情報提供及び収集、北海道大学韓国同窓会活動支援等を活動の目的にしています。

開所式には、佐伯 浩総長、本堂武夫理事・副学長、上田一郎理事・副学長をはじめとする計25名の本学関係者と、在大韓民国日本国大使館、在韓国日本機関・企業等、交流協定締結校等の関係者、同窓生、一般市民の方々など総勢約250名が出席し盛大に行われ、佐伯総長挨拶の後、武藤正敏駐大韓民国特命全権大使及び李昇鍾ソウル国立大学校副総長から祝辞をいただき、本堂理事・副学長からの本学紹介、李宇新本学韓国同窓会長(ソウル国立大学校教授)からの同窓会紹介が行われました。

開所式の後は、「鈴木カップリング：ノーベル賞への道のり」と題した鈴木 章本学名誉教授による記念講演会が行われ、講演の中で鈴木名誉教授は「韓国にはすばらしい研究者が多く、近い将来ノーベル賞受賞者が現れるだろう。北海道大学ソウルオフィスが、そのような研究交流の橋渡しをしてほしい。」と話されました。

また、今回の開所式に合わせて、韓国の公州大学校との大学間交流協定調印式も執り行われました。本学から佐伯総長、本堂理事・副学長、姉崎洋一教育学研究院長ら6名と公州大学校からSuh総長やKim副学長ら6名が出席し、両大学の交流に関する懇談及び協定書の署名を行いました。

ソウルオフィスを通じて、韓国における大学間・部局間交流協定締結校との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、これにより、学術面にとどまらない幅広い面での交流が、より一層強化されることが期待されます。



開所式で挨拶を行う佐伯総長



同窓会紹介を行う李本学韓国同窓会長



鈴木名誉教授による記念講演会



公州大学校との大学間交流協定調印式



調印式後の記念撮影

●鈴木 章 名誉教授 韓国京畿科学高校にて特別講演会の実施

ソウルオフィス開所式・記念講演会の翌日の8月3日(水)に京畿科学高校において、鈴木章本学名誉教授による生徒向けの講演が行われました。

京畿科学高校は、ソウル市近郊の水原市にある理工系のエリート高校で、韓国全域から選ばれた優秀な生徒が集まり、将来のノーベル賞受賞者の輩出を目指して科学人材の育成に力を入れています。

講演は、「科学が未来を拓く：2010年ノーベル化学賞受賞者からのメッセージ」と題して、ノーベル化学賞受賞に至るまでの経緯や有機化学を通じての科学の面白さについてわかりやすく講演されました。

講演終了後の質疑応答では、生徒から鈴木カップリングを生物等の他の分野で応用できないかなどの活発な質問が寄せられ、鈴木名誉教授は、丁寧に対応されていました。



京畿科学高校での特別講演会の様子
鈴木名誉教授(右)と京畿科学高校長(左)



京畿科学高校で講演を行う鈴木名誉教授

(国際本部国際連携課)

アジア・太平洋環境大学院コンソーシアムの 理事会及び総会に出席

本学が議長大学として加盟するアジア・太平洋環境大学院ネットワーク（ProSPER.Net：プロスパーネット）の理事会及び総会が、7月11日（月）から14日（木）にかけてフィリピン大学ディリマン校で開催され、本学国際本部から、サステナビリティ統括ダイレクターを務める瀬名波栄潤文学研究科准教授と原谷友香コーディネーターが出席しました。

2008年6月に本学において発足式を行ったProSPER.Netは、持続可能な発展のための教育（Education for Sustainable Development）を推進するための活動を展開しています。現在23の機関が加盟しており、国連大学高等研究所及び国連大学ソフトウェア研究所が事務局を務めています。本学は2010年7月より議長大学を務めており、また8つの機関による協働事業であるAUAプロジェクト（ESD大学評価事業：Alternative University Appraisal）の主導機関

としても積極的に活動しています。

今回の会議においては、国連持続可能な教育のための10年（2005年－2014年：United Nations Decade of Education for Sustainable Development）の終了年である2014年に日本で開催される最終年会合に、本コンソーシアムにおける活動を成果報告書として提出することが決定しました。本学は、AUAプロジェクトの活動及び成果について寄稿する予定です。

AUAプロジェクトは、サステナビリティ活動を推進する大学同士がノウハウを学び合うコミュニティを構築するために開始し、本年度で3年目を迎えました。本年度は、国連大学より600万円の資金支援を受け、サステナビリティ活動の評価及び相互にアドバイスを行うためのコンサルテーションシステム（AUAシステム）の完成に向けて取り組んでいます。

本コンソーシアムにおけるその他の協働事業及び主導機関は、以下のとおりです。

- ・サマースクール（国連大学高等研究所）
- ・若手研究者アワード（国連大学高等研究所）
- ・貧困削減のためのコミュニケーション・ソリューションの開発（国連大学ソフトウェア研究所）
- ・ビジネスカリキュラムへのサステナビリティ教育の導入（アジア工科大学）
- ・公共政策カリキュラムへのサステナビリティ教育の導入（TERI大学）
- ・環境工学カリキュラムへのサステナビリティ教育の導入（同済大学）
- ・工学および建築環境カリキュラムへのサステナビリティ教育の導入（マレーシア科学大学）



ProSPER.Net会議メンバー



議長を務める瀬名波准教授（中央左）

ProSPER.Net加盟機関（23機関）

理事（9機関）

北海道大学（議長）、アジア工科大学（本部：タイ）、TERI大学（インド）、同済大学（中国）、フィリピン大学、マレーシア科学大学、南太平洋大学（フィジー）、延世大学（韓国）、ロイヤルメルボルン工科大学（オーストラリア）

理事以外のメンバー（12機関）

岩手大学、岡山大学、信州大学、東京大学、名古屋大学、法政大学、宮城教育大学、横浜国立大学、立教大学、ガジャマダ大学（インドネシア）、中国科学院、チュラロンコーン大学（タイ）

事務局

国連大学高等研究所、国連大学ソフトウェア研究所

（国際本部国際連携課）

情報基盤センターが大韓民国 漢城大学校芸術大学と 部局間交流協定を締結

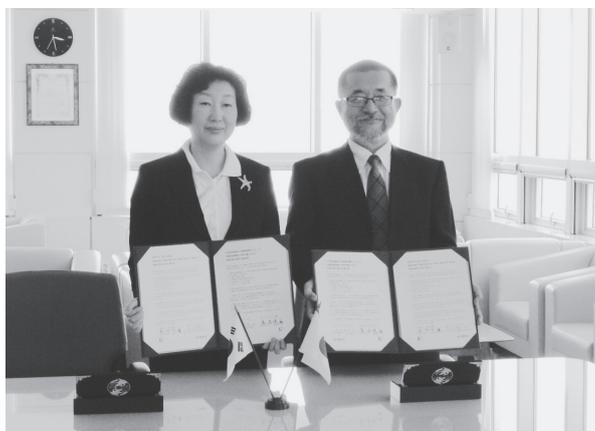
情報基盤センターでは、7月29日（金）に、大韓民国漢城大学校芸術大学と部局間交流協定を締結しました。漢城大学校芸術大学で行われた調印式には、情報基盤センターから本協定の担当教員である野坂政司教授が出席しました。

漢城大学校は、ソウル市にある私立大学で、1972年に設立され、人文、社会科学、芸術、工学の4部局のほか、8部局の大学院、4部局の研究センターで構成されており、学生約7,000名、教員約300名を擁し、これまで26カ国37大

学との交流提携を結んでいます。

本センターでは、2010年からデジタルコンテンツ研究部門を中心に、デジタルメディアに関する研究交流を深めてきました。これらの交流実績を踏まえ、今後さらなる交流を推進していくために、このたび部局間交流協定が締結されました。

今後、この協定締結を機に、一層活発な交流推進が期待されます。



協定書を取り交わした
崔海珠漢城大学校芸術大学長（左）と
野坂情報基盤センター教授（右）

（情報環境推進本部情報推進課）

北キャンパス総合研究棟6号館（生物機能分子研究開発プラットフォーム）竣工式典・祝賀会を挙げる

創成研究機構では、北キャンパス総合研究棟6号館（生物機能分子研究開発プラットフォーム）の完成を祝い、7月29日（金）に約70人の学内外関係者をお招きし、竣工式典・祝賀会を行いました。

竣工式典では、上田一郎創成研究機構長の挨拶に続き、佐伯浩総長、和田秀一北海道経済産業局長、高井修北海道副知事、近藤龍夫北海道経済連合会会長からご祝辞をいただいた後、幸田敏明創成研究機構生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター長より施設の概要説明がありました。その後、北キャンパス総合研究棟6号館（生物機能分子研究開発プラットフォーム）の1・2階フロアの見学が行われました。

引き続き開催された祝賀会では、上田創成研

究機構長の挨拶に続き、常俊優公益財団法人北海道科学技術総合振興センター専務理事の祝杯の後祝宴となり、岡田尚武（前）北海道大学理事・副学長・創成研究機構長の祝辞に続き、綾部時芳先端生命科学研究院教授、小池和幸理学研究院教授、郷原一壽工学研究院教授より研究内容の紹介があった後、幸田センター長の締めめの乾杯により、盛会のうちに終了となりました。

今回完成した北キャンパス総合研究棟6号館（生物機能分子研究開発プラットフォーム）が、動物実験の実施及び最先端の研究機器の利用等による産学官連携のプロジェクト型共同研究を推進し、創薬・機能性食品の開発拠点となることが期待されます。



祝辞を述べる佐伯総長



祝辞を述べる和田北海道経済産業局長



挨拶する上田機構長



幸田センター長による施設の概要説明

（研究推進部産学連携課）

平成23年度（財）北海道大学クラーク記念財団 助成事業の決定

（財）北海道大学クラーク記念財団では、本学の教育研究、学生支援等に対し毎年助成事業を行っておりますが、本年度につきましては次

のとおり決定いたしました。

なお、助成金額は、今後の予定も含めまして総額42,150,000円となっております。

1. 教育研究活動支援事業

(1) 博士後期課程在学学生研究助成

採択数 15件 採択金額 7,480,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
向井 健	教育学院	DC3年	地域における生活課題当事者の自立を支える学習論理の解明	500,000円
山村 宏江	工学院	DC1年	トキシコゲノミクス的アプローチを用いた下水処理水中の残留医薬品の毒性評価	500,000円
杉野 義都	工学院	DC1年	酸化物分散強化型（ODS）フェライト鋼の高温変形機構に関する研究	500,000円
三浦 泰人	工学院	DC1年	コンクリートの化学劣化・破壊領域の進展に関する準微視的・力学連成解析システム	500,000円
高 健	工学院	DC1年	MBMSを用いたジメチルエーテルの低温着火機構の解明	480,000円
多羽田大助	農学院	DC1年	植物の環境ストレス耐性に関わる二本鎖RNA解離タンパク質の分子的・生理的機能解析	500,000円
松永 宗幸	農学院	DC3年	テンサイOwen型細胞質雄性不稔性発現機構の解明	500,000円
村井 勇太	農学院	DC2年	光アフィニティーラベルによる機能解析を目指した新規光反応性インドール誘導体の合成	500,000円
平山 洋佑	農学院	DC3年	ピフィズス菌のゲノム機能解析に向けた遺伝子破壊技術の開発	500,000円
西野 智博	獣医学研究科	DC2年	低体重出生による腎臓形態変化・腎機能低下の分子メカニズム解明	500,000円
奥山みなみ	獣医学研究科	DC2年	北海道の雄アライグマ（Ploceon lotor）における、性成熟過程と季節繁殖に関わる性腺機能変化の詳細解明	500,000円
後藤 直也	生命科学院	DC2年	Alcadein familyタンパク質の機能解析	500,000円
古堅 彩子	生命科学院	DC2年	エイコサノイドの膜透過機構に関する研究	500,000円
林 泰弘	保健科学院	DC2年	自然環境中から株化された難培養性細菌感染アメーバを用いた新規共生基盤の探索	500,000円
原測 祐	総合化学院	DC2年	全対称振動変曲点を有する分岐反応の理論的研究	500,000円

(2) 新渡戸基金研究助成

採択数 1件 採択金額 500,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
近藤健一郎	教育学研究院	准教授	北海道大学で学んだ沖縄出身者たち－札幌農学校卒業生 宮城鉄夫を中心に－	500,000円

2. 教育研究国際交流支援事業

(1) 博士後期課程在学生海外派遣助成(学会等発表)

採択数 15件 採択金額 2,220,000円

氏名	所属部局等	学年等	会議名(開催国名)	助成額
山中 亮	教育学院	DC3年	第16回ECSS学会大会	150,000円
時 暁楠	情報科学研究科	DC3年	第26回国際回路/システム, コンピューター, 通信技術会議 The 26th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2011)	120,000円
大宮 哲	環境科学院	DC3年	アメリカ地球物理学連合	150,000円
リュウ ヨンウン	水産科学院	DC3年	第9回魚類繁殖生理国際シンポジウム	150,000円
白川 北斗	水産科学院	DC3年	国際ヤツメウナギシンポジウム	150,000円
寺沢 重法	文学研究科	DC3年	第31回国際宗教社会学会学術大会	150,000円
福地 孝平	工学研究科	DC3年	第11回機械材料の性質に関する国際会議	150,000円
安田 尚人	工学院	DC1年	自己伝播型高温合成に関する国際シンポジウム	150,000円
大木 平	理学院	DC3年	シュミレーション天文学の進展: 計算手法, 道具立, 成果 Advances in Computational Astrophysics: methods, tools and outcomes	150,000円
喜多 俊介	生命科学院	DC3年	第22回国際結晶学会国際会議及び総会	150,000円
山下恵太郎	生命科学院	DC2年	第22回国際結晶学会国際会議及び総会	150,000円
鶴山 真紀	歯学研究科	DC3年	2011年米国骨代謝学会	150,000円
佐々木宗輝	歯学研究科	DC3年	2011年米国骨代謝学会	150,000円
原 新太郎	農学院	DC3年	2011年世界応用微生物会議	150,000円
BURCE MARLOW EDGAR KORTES	農学院	DC3年	2011年 ASABE 国際学会	150,000円

(2) 学部学生等海外派遣助成(留学)

採択数 ①長期留学 25件 ②短期留学 10件 採択金額 6,950,000円

①長期留学(交流協定のある大学に私費留学する場合)

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
木村 亮	文学部	3年	ドイツ(ミュンヘン大学) <H23.10.1~H24.7.31>	250,000円
大西 幸奈	文学部	3年	韓国(ソウル市立大学) <H23.8.30~H24.6.17>	250,000円
篠原 亮子	文学部	3年	中国(清華大学) <H23.9.1~H24.6.30>	250,000円
林 峻平	文学部	4年	タイ(マヒドーン大学) <H23.9.10~H24.1.31>	250,000円
山口 由華	文学部	4年	ドイツ(ミュンヘン大学) <H23.4.1~H24.1.31>	250,000円
高澤 昌稔	文学部	4年	アメリカ合衆国(オレゴン大学) <H23.9.1~H24.6.30>	250,000円
石川 翔	文学部	4年	フィンランド(オウル大学) <H23.9.5~H24.5.31>	250,000円
丸山 絢子	文学研究科	MC2年	ドイツ(ミュンヘン大学) <H23.10.1~H24.7.31>	250,000円

全学ニュース

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
川島 吉人	法学部	2年	アメリカ合衆国（オレゴン大学） ＜H23.9.1～H24.6.30＞	250,000円
渡部 雄大	経済学部	3年	スウェーデン（ヨーテボリ大学） ＜H23.8.20～H24.1.25＞	250,000円
大堀 慶	経済学部	3年	中国（復旦大学） ＜H23.9.1～H24.7.6＞	250,000円
木谷 祐希	経済学部	3年	台湾（国立台湾大学） ＜H23.9.5～H24.7.31＞	250,000円
高山 朋之	経済学部	4年	ブラジル（サンパウロ大学） ＜H23.8.1～H24.1.31＞	250,000円
吉田 綾	経済学部	4年	イギリス（シェフィールド大学） ＜H23.9.15～H24.2.4＞	250,000円
野口 卓弥	経済学部	4年	台湾（国立台湾大学） ＜H23.9.1～H24.1.31＞	250,000円
清野 広平	経済学研究科	MC1年	カナダ（マクマスター大学） ＜H23.9.8～H23.12.21＞	250,000円
吉井 孝拓	理学部	3年	カナダ（アルバータ大学） ＜H23.9.1～H24.4.20＞	250,000円
井上 周也	農学部	3年	フランス（ストラスブール大学） ＜H23.9.1～H24.6.30＞	250,000円
須藤 舞	農学部	4年	フィンランド（オウル大学） ＜H23.9.1～H23.12.22＞	250,000円
田中 智大	教育学部	3年	台湾（国立台湾大学） ＜H23.8.1～H24.7.31＞	250,000円
岩元 綾香	環境科学院	MC1年	アメリカ合衆国（ハワイ大学ヒロ校） ＜H23.8.15～H24.5.11＞	250,000円
上田 静	工学部	4年	タイ（マヒドーン大学） ＜H23.4.25～H24.4.1＞	250,000円
原澤 祥典	工学部	4年	フィンランド（オウル大学） ＜H23.9.5～H24.5.31＞	250,000円
瀬瀬麻佑子	工学院	MC1年	スイス（スイス連邦工科大学） ＜H23.9.1～H24.1.29＞	250,000円
大脇 慶多	工学院	DC2年	スイス（スイス連邦工科大学） ＜H23.9.1～H24.8.31＞	250,000円

②短期留学（全学教育における語学成績の優秀な者で、海外留学を希望する場合）

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
下郷 沙季	文学部	2年	韓国（ソウル市立大学） ＜H23.8.8～H23.8.23＞	70,000円
中寫 弘樹	文学部	2年	中国（北京科技大学） ＜H23.8.13～H23.8.31＞	70,000円
大沢 祐輝	教育学部	2年	中国（北京科技大学） ＜H23.8.13～H23.8.31＞	70,000円
世良 尚也	教育学部	2年	中国（北京科技大学） ＜H23.8.13～H23.8.31＞	70,000円
安田 三冬	教育学部	2年	中国（北京科技大学） ＜H23.8.13～H23.8.31＞	70,000円
長田 悠里	医学部	2年	英国（キングスカレッジ・オックスフォード校） ＜H23.8.6～H23.8.28＞	70,000円
川村 桜	歯学部	2年	フランス（トゥレーヌ学院） ＜H23.8.12～H23.9.16＞	70,000円
森 麻由	工学部	2年	ドイツ（ミュンヘン工科大学） ＜H23.9.5～H23.9.29＞	70,000円
瓜本明日香	農学部	2年	中国（未定） ＜H23年夏季休業又はH24年春季休業期間を予定＞	70,000円

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
鈴木 智	農学部	2年	中国(上海大学) <H23.8.28~H23.9.17>	70,000円

(3) 外国人留学生奨学金助成(給付・単年度限りとする)

採択数 3件 採択金額 1,800,000円

氏名	所属部局等	学年等	国籍	助成額
オウ 王 磊	経済学研究科	DC2年	中国	月額 50,000円
ハン 韓 若康	文学研究科	DC2年	中国	月額 50,000円
ハルタル Khaltar アマルトゥフシン Amartuvshin	医学研究科	DC2年	モンゴル	月額 50,000円

3. 奨学育英事業**学部学生奨学金助成(貸与)**

採択数 ①平成23年度新規 10件 ②継続者 27件 採択金額 22,200,000円

①平成23年度新規

氏名	所属部局等	学年等	貸与期間	助成額
前島 充雅	総合教育 歯学部	1年	H23年4月~H29年3月	月額 50,000円
藤村 真也	歯学部	2年	H23年4月~H28年3月	月額 50,000円
高木 拓也	工学部	3年	H23年4月~H25年3月	月額 50,000円
大嶋 香織	経済学部	3年	H23年4月~H25年3月	月額 50,000円
森貝 聡恵	文学部	2年	H23年4月~H26年3月	月額 50,000円
諸田 稔	法学部	2年	H23年4月~H26年3月	月額 50,000円
小坂 典子	農学部	3年	H23年4月~H25年3月	月額 50,000円
松田 識郁	医学部(医学科)	2年	H23年4月~H28年3月	月額 50,000円
高橋 正樹	総合教育 医学部(医学科)	1年	H23年4月~H29年3月	月額 50,000円
廣田 彩乃	農学部	4年	H23年4月~H24年3月	月額 50,000円

【今後の予定】**4. その他の事業****学業優秀者表彰助成(クラーク賞)**

採択数 50件 採択金額 1,000,000円

(総務企画部総務課)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動をするとしています。平成18年から平成23年までの5年間で15億円から25億円の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

【北大フロンティア基金情報】

基金累計額 (7月31日現在)

11,551件 2,105,645,026円

教職員の寄附率 25.5% (998件/3,917人)

〈7月のご寄附状況〉

法人等2社、個人245名の方々から18,197,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲載、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

なお、基金累計額には、北海道大学国際交流事業基金より移し替えた3億円を含んでおります。

寄附者ご芳名

(法人等)

柏楊印刷株式会社、北大土木46期卒業40周年記念

(個人)

阿部 彰, 荒木 義之, 荒谷 徹, 飯田 安利, 池田 哲平, 石川 一, 石川満寿夫,
 伊藤 陽, 伊藤 傅, 今泉 宏, 上田 敦, 榎 良一, 大内千枝子, 大貫 富夫,
 大沼 良文, 大橋 宣幸, 大畑 昇, 岡田 光弘, 小内 透, 小野澤 潔, 小原 大和,
 垣添 寛和, 梶原 健次, 加藤 寛, 金澤 義輝, 狩野 俊介, 川向 博, 神田 稔久,
 吉川 信一, 木原 茂明, 熊谷 満, 後久 建二, 児島 仁, 駒崎 政明, 佐伯 公子,
 笹木 国春, 佐々木良作, 佐藤 正芳, 澤田 昭志, 柴田 厚志, 柴山 良彦, 渋谷 正人,
 志村 和雄, 志村 圭, 白石 重政, 白尾 宣彦, 新藤 範義, 杉原 平樹, 杉山 伸夫,
 鈴木 信二, 鈴木仙吉郎, 角井 碧, 清治 真人, 瀬名波栄潤, 高瀬 幸紀, 高橋 和久,
 高橋貴代美, 高橋 英紀, 高橋 光彦, 高橋 祐司, 滝沢 正人, 武市 靖, 田中 敬二,
 田中 直樹, 谷 京子, 田畑 好孝, 千田 敬喜, 千葉 敏朗, 辻 雅司, 土家 琢磨,
 手島 肇, 寺川 祐一, 寺澤 睦, 所 伸一, 豊田 威信, 中沢 洋, 中島 篤,
 中島 達己, 長門 彰, 中野 淑文, 中村 良輝, 錦織 正人, 西根 裕治, 西村 裕一,
 西山 恒夫, 新田 雅史, 野坂 政司, 萩原 大輔, 橋爪 俊明, 橋本 清文, 服部 健作,
 日向 敏, 平岡 陽治, 平野 歓喜, 藤井 利侑, 藤井 裕司, 藤崎 雅士, 伏見 滋彦,
 藤村 忠寿, 藤原 一, 船津 修一, 船津 保浩, 古川 康孝, 本間 茂希, 前川 雅彦,
 前田 龍, 松久三四彦, 松宮 恒夫, 松本 信康, 三浦 清一, 三浦 正和, 三上 隆,
 水梨 弘, 溝渕 優, 宮内 昭征, 宮内 誠, 宮城 秀雄, 宮本 義憲, 武藤 俊一,
 村中 修一, 百瀬 治, 安川 尚志, 八十川大輔, 山木 昇, 山岸 博子, 山本 隆幸,
 山本 敏央, 湯山 素, 吉田 広志, 米澤 勉, 渡辺 茂樹

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(個人)

荒木 義之, 後久 建二, 佐伯 公子, 杉原 平樹, 鈴木仙吉郎, 寺川 祐一, 藤原 一,
松久三四彦, 山岸 博子

感謝状の贈呈



中井玉仙様 (平成23年7月22日)

高額寄附者との懇談会

北大フロンティア基金では8月3日(水)に、昨年7月以降にご寄附をいただいた高額寄附者の方々をご招待し、総長室展示物見学・総長との記念写真撮影及び懇談会を開催しました。当日は、個人16名、企業18社31名の方々が出席し、はじめに山口佳三理事・副学長の挨拶があり、次いで総長室にて佐伯 浩総長と記念写真の撮影を行いました。その後、百年記念会館会議室において懇談会を開催し、佐伯総長から寄附へのお礼が述べられ、寄附者の方々と本学役員との懇談が和やかに行われました。



総長との記念写真の撮影



懇談会で挨拶する佐伯総長

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

北大ホームページ > 教職員向け > 学内限定情報・システム > 北大フロンティア基金のご案内(申込書)

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/fund.pdf>

② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ —— 基金事務室(事務局1階・学内電話 2012 / 2017)

(総務企画部広報課)

北海道大学 緑のビアガーデン2011を開催

今年で6回目となる緑のビアガーデンは、8月2日（火）～5日（金）の4日間開催し、無事終了しました。天候に恵まれ気温の高い日が続いたこと、価格設定を見直したことに加えて、広報活動の開始時期を早めたことも功を奏したのか、例年より多くの皆様に緑のなかでの静かなビアガーデンを楽しんでいただくことができました。

今回のフードメニューには、北大農場の協力

により農場産トマトを使用した冷製ピザ、静内研究牧場の協力により牧場で育った牛肉で作ったローストビーフサラダを用意し、来場された方々に「北大の味」をご賞味いただきました。

6年目を迎え、毎年楽しみにしてくださるお客様が増えてきて、北大キャンパスの夏の風物詩として地域に定着してきたことを感じた4日間でした。



“北大の夕べ”を楽しむ皆様



爽やかな緑の中で



北大産の食材を使ったメニューが人気

（総務企画部広報課）

「環境広場さっぽろ2011」に出展

7月29日(金)～31日(日)にアクセスサッポロで開催された「環境広場さっぽろ2011」に本学として初めて出展しました。

環境展「環境広場さっぽろ2011」は、平成15年から札幌市が中心となった実行委員会主催で行われており、産学官民の取り組みを広く周知し、環境ビジネスの普及促進を図るとともに、来場者一人ひとりがエコライフを实践するための情報を取得し、地球環境を守るための行動につなげる場となるような総合展示会を目指しています。

本学の出展テーマは「北大のサステイナブルキャンパスへの取組」とし、パネル展示や、パ

ンフレットの配布、また子どもたちに「地球のためにできること」と題して、地球へのメッセージを葉っぱに書いてもらい、大きな幹の絵に子どもたちが自ら葉っぱを貼るような仕掛けを用意しました。

この環境展の出展には119の企業・団体が参加し、総入場者は33,354名、内本学のブースへの来場者は約500名でした。ブースへ来場された方や他の出展者から北大の環境への取り組みに対して多くのご質問やご意見があり、本学が色々な方々から注目されていることが改めて認識されました。



北大ブース



パネル展示に見入る来場者



葉っぱに書かれたメッセージ



会期中、環境保全センター長 松藤敏彦先生の
ビジネスセミナーも行われました

(サステイナブルキャンパス推進本部)

北海道大学入試説明会を実施

道内高等学校等の進路指導担当教諭を対象とした入試説明会が、7月20日（水）午前10時から学术交流会館において開催され、高等学校等から94団体、144名の参加がありました。

説明会では山口佳三アドミッションセンター長の挨拶、及び本学の現状説明に引き続き、小内透アドミッションセンター副センター長から平成23年度入試結果の概要について説明がありました。

その後、質疑応答が行われ、さらに説明会の一環としてアドミッションセンター教職員による個別相談会が実施され、総合入試等に係る質問が寄せられました。



山口アドミッションセンター長の挨拶

（アドミッションセンター）

平成23年度交換留学生に対する 出発前オリエンテーションを実施

国際支援課では、7月28日（木）に国際本部大講義室において、平成23年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施しました。

本オリエンテーションは、平成23年度に主に本学の大学間交流協定大学に留学を予定している学生を対象に行われたもので、30名余りが参加しました。

冒頭に高井哲彦経済学研究科准教授および瀬名波栄潤文学研究科准教授より、留学を目前に控えた学生達に対し、自身の留学経験から留学生活における留意点を織り交ぜた有意義なメッセージが贈られました。次いで、国際支援課より、出発前・滞在中及び帰国に際し、留意すべき事項について危機管理を含めた詳細な説明がありました。参加学生達は、出発を目前に控え、真剣な表情で聞き入っていました。オリエン

テーション終了後、各学生の自己紹介が行われ、引き続き、昨年度及び一昨年度に交換留学生として派遣された学生並びに協定大学からの交換留学生等を含めた交流会がにぎやかに行われました。

今年度の大学間交流協定大学等への派遣者は45名を予定しております。国際本部では、交換留学を含めた海外留学の促進活動を行っています。学生の留学に対する意識を高めるため、目的別・地域別など工夫を凝らした説明会・セミナーを実施するとともに、手近な留学機会として夏期・春期の休業期間中に短期語学研修プログラムを提供しております。国際支援課では、個別留学相談も実施していますので、興味のある学生にご紹介いただければ幸いです。

（国際本部国際支援課）

「米国大学院留学説明会」、「交換留学説明会」及び「フィンランド留学説明会」を開催

国際支援課では、国際本部において「米国大学院留学説明会／7月5日(火)」、「交換留学説明会／7月12日(火)及び15日(金)」及び「フィンランド留学説明会／7月20日(水)」を開催しました。

「米国大学院留学説明会」は、アメリカの大学院への学位留学を志す学生を支援する目的で、在米日本人留学生たちにより設立された米国大学院学生会の主催で行われ、学位留学について現在アメリカの大学院に在籍中の学生(修了者も含む)3名により詳細な説明が行われました。



在米日本人留学生からの説明

「交換留学説明会」では、冒頭に蟹江俊仁国際本部役員補佐から、留学は知見を広めるのに役立ち、若い頃に留学を経験することが将来にとって非常に重要な意味を持つとのことのお話があった後、留学体験者からの報告等や全体説明会終了後の個別相談などを有効に活用し、今回の説明会を留学について考えを深めるきっかけにしてほしい旨のメッセージがありました。次いで、国際支援課より、本学の交換留学制度の概要及び7月下旬より募集開始が予定されていた「平成24年度交換留学」の申請に必要な諸手続きについての説明があった後、交換留学生としてアメリカ、韓国及びフランスの協定大学に留学した3名の学生より、それぞれの留学体験談が披露されました。

「フィンランド留学説明会」は、本年キャン



蟹江国際本部役員補佐からの挨拶

パス内に開設されたフィンランドセンター北海道事務所の主催で行われました。会場には、フィンランドセンターの担当者、フィンランド・オウル大学への留学経験者及び国際支援課の3つのブースが設置され、正午～午後3時までの3時間にわたり、フィンランドへの留学に関心のある学生達がブースを訪れ、熱心に質問していました。



フィンランド留学説明会の開催風景

国際本部は、海外留学説明会等を定期的に行うほか、目的別・地域別など工夫を凝らした説明会・セミナーを実施するなど、北大生の留学をより身近なものにするため、情報提供に努めています。国際支援課では、個別留学相談も実施しておりますので、興味のある学生にご紹介いただければ幸いです。

(国際本部国際支援課)

留学生と地域との交流「ホリデー イン 日高」を開催

留学生センター主催事業「ホリデー イン 日高」は、7月23日（土）・24日（日）の2日間、12カ国52名の外国人留学生と日本人学生16名が参加して開催されました。

今年で21回目となるこの交流事業は、日高町で開催される『ひだか樹魂まつり』に留学生が参加することにより、日本の伝統的なお祭りを体験し、地域の人々との交流を通して地方の生活・文化を学び、友好の輪を広げることを目的としています。

1日目は、昼前に国立日高青少年自然の家に到着し、すぐにオリエンテーションがありました。その後、昼食のバーベキューをしながら留学生と日本人学生の交流、そしてパレードで踊る「日高観光音頭」の練習をしました。今年の天候は晴れで確実に踊れるということで入念に練習が行われました。



バーベキューでの交流

その後、お祭り会場にバスで移動し、日高町の「道の駅」から練り歩いてきた町内の方々と合流し、「輪踊り」に参加し練習の成果を存分に披露しました。踊りの後は、出店や出し物を楽しみました。

1日目の最後は、沙流川の川縁で打ち上げられる花火に歓声をあげました。

2日目は、部屋の後片付けの後、朝食を取り、その後、日高青少年自然の家の担当者の指導する「交流プログラム」に参加し、皆思い思いに楽しんでいました。



交流プログラムに参加

再びお祭り会場に入り、最初に、1チーム5人が300kgの丸太を運んでタイムを競う「流送レース」の予選に留学生の4チームと地元の4チームが参加し、留学生の2チームを含めて上位4チームが本選出場になり、1時間半後、再びレースを行い、その結果、留学生チームは3・4位となり、賞品をもらい喜びに沸いていました。



丸太を運ぶ流送レース

「流送レース」の間に「国際交流ステージ」として、留学生による母国の踊りや歌を披露して拍手喝采を浴びていました。また母国の踊り際には、地元の方々も参加し楽しんでいました。

最後のプログラムとして、「もちまき」が行われました。今年は『ひだか樹魂まつり』の40回記念ということで「もち」の数が多く10個以上もとった留学生もあり、皆歓声を上げながら参加していました。

最後の「別れのつどい」では、参加者を代表して中国の留学生から、この事業に参加して大変楽しかったと感想が述べられ、また、企画した関係者に感謝の言葉が述べられました。

今年は、天候に恵まれ、参加した留学生と日本人学生は日高の雄大な自然の中で繰り広げられた祭りを通して地域との交流、お互いの友情を深めることができた2日間でした。



ステージで歌う留学生



会員揃っての記念撮影

(国際本部国際支援課)

部局ニュース

鈴木 章名誉教授のレリーフ像をお披露目

8月9日(火)、理学部で鈴木 章名誉教授のレリーフ像のお披露目の式が開催されました。このレリーフ像は、理学部化学科の24期生(昭和29(1954)年3月卒業)である鈴木先生が、世界的な栄誉であるノーベル賞を受賞されたことを記念して理学部7号館の大講義室前に掲げたものです。このたび、鈴木先生を理学部にお招きしてレリーフ像のお披露目の式を開催しました。

当日、会場となった大講堂では100人以上の教職員と学生が大きな拍手で鈴木先生をお迎えしました。式は理学研究院化学部門の及川英秋教授の司会により進められ、最初に及川教授からレリーフ像を作成することとなった経緯などが話され、引き続き山下正兼理学研究院長の挨拶、そして鈴木先生が理学部化学科での学生時

代、助手として勤めた頃の思い出話を織り交ぜながらレリーフ像の作成について謝辞を述べられました。その後、レリーフ像が掲げられている大講義室前に移動して鈴木先生、山下研究院長、理学研究院化学部門長の武次徹也教授により除幕式が行われました。

このレリーフ像は、高岡市在住で北海道出身の造形家、楢原北悠氏が制作したものです。鈴木先生のやさしい笑顔が表現されている像は、気さくな人柄のなかにも威厳を感じるすばらしい作品となっています。化学科の講義が行われる大講義室の前に掲げられたレリーフ像を目にするたびに学生たちは、偉大なOBと同窓であることを誇りに感じ勉学の励みとすることでしょう。



挨拶する鈴木名誉教授



挨拶する山下研究院長



鈴木先生、山下研究院長、武次化学部門長で除幕



鈴木先生とレリーフ像

(理学院・理学研究院・理学部)

公共政策大学院が網走市との連携協定を締結

公共政策大学院（公共政策学連携研究部・公共政策学教育部）と網走市は、相互の発展を目指し、学術研究、地域づくりなど、多様な分野において協力するために、7月5日（火）、網走市において連携協定を締結しました。

網走市は、長年人口減少が進み、地域活力の低下に対処して、様々なまちづくり施策を推進してきていますが、昨年12月、本大学院を卒業した水谷洋一市長が就任し、「健康な市民」「健康な経済」「健康なまち」などをキャッチフレーズに、さらなる活力ある地域づくりを目指しています。

こうした地域づくりを推進するために、本大学院が、網走市を対象とする実証的な研究などを通じて網走市の自立的な地域づくりに協力する一方で、網走市も、研究フィールドや研修機会を提供するなどして、本大学院の運営に協力することとしています。

今年度は、地域医療に係る共同研究を中心に連携を進める予定とし、すでに具体的な作業に入っており、実りのある連携交流が期待されます。



調印後の宮脇淳連携研究部長（左）と
水谷網走市長

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）

メディア・コミュニケーション研究院公開講座 「『公共』の多様性と新しい流れ」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成23年度公開講座「『公共』の多様性と新しい流れ」を、6月9日から7月28日まで、毎週木曜日・全8回にわたり実施しました。

本講座では、「公共性」をキーワードにして、近年、多様化してきた「公共」の考え方とあり方を紹介しました。「公共性」をめぐる「思想史」「持続可能性」「宗教の復興」「ことば」「排除と障害」などのテーマ、また「メキシコ」「アフリカ」「ヨーロッパ」などの世界各地の事例

を通して、「公共」の思想と実践の多様性やその新しい流れについて、各講師から様々な話がありました。

講義中、積極的に発言したり、熱心に講師に質問したりする受講生の姿が見られ、本講座のテーマに対する関心の高さがうかがえました。

講座の最終日には、6回以上出席した36名の受講生が担当講師から修了証書を手渡され、本講座は盛況のうちに無事終了することができました。



講義風景



受講生への修了証書授与

(国際広報メディア・観光学院, メディア・コミュニケーション研究院)

グローバルCOEプログラム 「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」主催 国際サマースクール2011を開催

6月27日(月)から7月8日(金)にかけて、北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林、静内研究牧場、生物生産研究農場(札幌キャンパス)を舞台に、グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」主催による国際フィールド科学サマースクール2011“Understanding coupled natural and social system; feedback loops between land-use and ecosystem change”が開催されました。

本サマースクールは、博士後期課程の大学院生に将来における国際的・学術的国際プロジェクトを牽引できるような研究者としての能力を身につけてもらうことを目的としています。公募で選ばれた、アメリカ・ブラジル・ドイツ・韓国・ネパールなどからの海外の大学院生と、環境科学院及び農学院環境資源学専攻の大学院生をあわせて13カ国から18名が参加しました。海外からは31カ国から77名もの参加申し込みがあり、3回目を迎える本サマースクールが海外でも高く評価、認知されていることがうかがえました。本サマースクールがIGBP^{*1}とIHDP^{*2}のコアプログラムである全球陸域研究計画(Global Land Project: GLP)札幌拠点オフィスや、フィールド研究サイトの世界的ネットワークである国際長期生態学研究ネットワーク(ILTER)の共催であることも、国際的に高い関心を得ることができた要因だと考えています。

サマースクールでの指導スタッフは北方生物圏フィールド科学センター森林圏及び耕地圏ステーションが中心となり、海外からの招へい講師として、米国・イリノイ大学のEvan DeLucia教授、同アリゾナ州立大学のMilan Shrestha講師、インドネシア・ボゴール農科大学のSundarsono Jayadi教授を迎え、講義や指導にご協力いただきました。また、米国・森林局でGLP国際科学委員であるMorgan Grove博士は都合により来日できなかったため、インターネット経由での講義を通じてご参加いただきました。

今年度は「自然—人間システムの融合的理解」をテーマに、地球規模で経済や環境が変動していく中で持続可能な社会を築くには何が必要なのかについて議論しました。そして、本学がこれまで整備してきたフィールド施設、長期的な生態系モニタリングや教育研究のサポート体制を最大限に活用し、フィールドでの調査観測技術の習得、参加者による各自の研究のポスター発表、講義、グループ討論・発表などを行いました。

具体的には、苫小牧研究林や静内研究牧場、生物生産研究農場のさまざまなテーマを対象としたフィールドセッションが行われ、参加者は各生態系においてどのような研究が行われているのか、その背景や調査・観測手法を学びました。またグループ討論では、人為攪乱や土地利用の変化と生態系サービスの関係について、4～5人のグループに分かれて討論し、発表しました。最終日には、生態系変化が人間社会にもたらす影響や自然—人間システムの理解のために今後どのような研究が必要なのかについて、活発な議論が交わされました。



池のほとりでグループ討論する参加者
(苫小牧研究林)

プログラムを通じて参加者は積極的に、そして協力的に取り組みました。これらの経験は自身のスキルアップと参加者間の信頼関係構築に

つながりました。この交流が今後も続き、将来のフィールド環境科学における国際的連携や共同研究の発展につながることを期待されます。また今回は森林—牧場—農場と、北方生物圏フィールド科学センターの森林圏と耕地圏施設を横断した取り組みとなり、今後の学内での学際研究の一層の発展が期待されます。

*1 IGBP:国際地球圏生物圏協同研究計画

*2 IHDP:地球環境変化の人的側面に関する国際研究計画



林内放牧される馬と一緒に林内で記念撮影
(静内研究牧場)

(環境科学院・地球環境科学研究院)

スラブ研究センターが 平成23年度夏期シンポジウム開催

7月7日(木)から8日(金)にかけて、スラブ研究センターで夏期シンポジウム『同盟と境界：地域大国を規定するもの』が開かれました。新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」(田畑伸一郎代表)第1班(国際関係班)の主催、グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」(岩下明裕代表)、及び科学研究費補助金 基盤研究A「北東アジアの冷戦：新しい資料と展望」(デイヴィッド・ウルフ代表)の共催による今回のシンポジウムには、海外から多くの研究者が集まり、合わせて日米安保60周年と、ソ連崩壊20周年を記念して行われました。

今回のシンポジウムで最も重要な意味を持つ試みとしては、アジアの冷戦における同盟と境界の諸問題を明確に位置付けること、現代ヨーロッパの再編に関わる出来事を検証することが挙げられます。

これまで、ヨーロッパとアジアをめぐって2つの超大国が競い合うという構図が、冷戦を捉える上でお定まりの基準となっていました、

現実はそのように単純な幾何学的構図で捉えられるものではなく、より複雑に絡み合っていました。まさに合意が結ばれる過程そのものなかに、将来不和の生じる要因が含まれていることもあったからです。

例えば1950年に結ばれた中ソ協定の機密条項は、スターリンやその他の「新しい皇帝たち」に対する毛沢東の態度を硬直化させました。さらにその後、日米同盟の取引と、安全保障上の基地をめぐって内密の取り交わしがなされたことは、「マッカーサー憲法」の関連条項とともに、日本が再軍備にかかる出費を回避することを可能にしましたが、アメリカは後でこのことについて不平を言うようになりました。中ソ関係の場合も、日米関係の場合もともに、安保条約にともなう経済的效果への期待が、長年にわたる非難の応酬を招くことにもなりました。あとから考えてみると、取引の核となる部分に意図的に残された様々な不均衡が、時代を越えてそれと認められる不平等を生みだし、同盟関係の破綻を招いたのは明らかです。

また同じく重要なのは、ほとんどの場合、同盟関係は敵対する勢力に対して目に見えない三角関係を作りながら結ばれるものだったということです。そのため、同盟関係にある国のどちらか一方の変化は、たとえ敵との緊張を和らげる望ましいものであったとしても、「抜け駆けの和合」という裏切りの恐れをもたらすものでした。日本の議員が1950年代に中国を訪問したことに対してアメリカが反応し、1970年代に米中の国交正常化に至ったことは、こうした点から分析されなければなりません。

国境もまた、しばしば厄介な問題となります。冷戦によってあらゆる戦闘に歯止めがかかるとともに、パルチザン戦、秘密作戦、「パブリック・ディプロマシー」など、クラウゼヴィッツの古典的な公式で言うならば、別の意味で真の政治をなすところの様々な「小戦争」となりました。国境をめぐる小競り合いが起きるようになりました。世界最長の中ソ国境は、友好的に機能する時期もありましたが、より永続的には両国を分かつ深い溝となりました。比較的流血沙汰になることの少ない国境をめぐる小競り合いは、しばしば壊れやすい同盟関係の裏に潜んだ三角関係を明るみにします。1959年と1962年に起こった中印衝突は、間もなくして中ソ同盟が崩

壊する要因となり、ネルーの抱いていた非連携、「非同盟」の道筋を弱めることになりました。1969年にウスリー川流域と新疆ウイグル自治区で起こった中ソ国境紛争は、ひとつの同盟が終わって別の同盟が始まることについて、中国がアメリカに知らせる明らかな合図でした。

国境と同盟に関する難問の数々においては、ヨシフ・スターリンから鄧小平、リチャード・ニクソンから中曽根康弘にいたるまで、私たちの時代における様々な政治家によって、地域の覇権を築いたり妨害したりするなかで、影響力が行使されてきました。その戦略や計画はしばしば期待とは異なる結果を招いたものの、基本的な輪郭は維持されたままで、同盟国は過去から持ち越された共通の利益や共有される将来の不安によって結びつけられています。国境と同盟に関する問題は、まさに地域大国がそれによって成り立っている要素なのです。これらのことが札幌の白熱した2日間で報告され、議論されました。

シンポジウムで報告された内容は、グローバルCOEプログラムの発行する雑誌『Eurasian Border Review』の特集号として刊行される予定です。



報告者に質問するシンポジウム参加者



ラウンドテーブルの様子

(スラブ研究センター)

文学研究科FD研修会「コミュニケーション支える学生と教師のいい関係ーアサーションを手がかりにー」

7月20日（水）、文学研究科ではひと味違うFD研修を行いました。それは教員と学生が参加し、コミュニケーションについて学ぶというものです。講師は元日本女子大学教授、現在は東京の統合的心理療法研究所（IPI）の所長でいらっしゃる臨床心理士、平木典子先生です。家族療法、アサーション・トレーニングの第一人者です。演習も含む、2時間半のご講義をいただきました。



講演の様子

講義の内容を以下にまとめます。

アサーション (assertion) を辞書で引くと「主張」「断言」という意味になりますが、ここでのアサーションとは、1970年代頃より臨床心理学で用いられるようになったコミュニケーションのあり方のこと。「自分も他者も尊重した自己表現」であり、「ものの見方、価値観は人それぞれ」を前提とするコミュニケーションの様式のことだそうです。アサーティブであるというのは、「自分の気持ち、考え」を言いつばなしにする、あるいは押し付けるのではなく、相手が自分とは異なる気持ち、意見をもっていることを認め、相手が拒否することも想定内とするコミュニケーションのスタイルとのことでした。

自己表現のあり方には①非主張的 (non-assertive)、すなわち言いたいことを言わない、言えないタイプ（その結果、怒りがたまって爆

発したり、忍耐のあまりウツになってしまう）、②攻撃的 (aggressive)、すなわち自分の言い分を通し、相手の言い分を聞かないタイプ（その結果、一時的には満足できても後味が悪かったり、相手から敬遠されてしまう）、③アサーティブ (assertive)、すなわち率直に自分の気持ちや考えを伝え、相手の表現をも受け止めることができるタイプに分けられます。日本人は7割が①のタイプに当てはまるそうです。一方で、指導・監督する立場にある教員は、知らず知らずのうちに②のコミュニケーションを行いがちだということでした。①も②も不満や葛藤が生じる原因となります。教員と学生双方が③を目指すことは、パワハラやディスコミュニケーションのない、より良い関係性を築くことにつながるというお話でした。

具体例を一つ示します。コピー機を占有して、長々とコピーをとっている人がいます。このような時には我慢するのではなく、「この資料を次の授業で使いたいです」と言ってみる。相手が返事をしなかったなら「無視された」と思うのではなく「聞こえないのかもしれない」と中立的に考え、もう少し声を大きくして同じことを言ってみる。ただし、すぐに番を代わってもらえるとは考えない。相手にも「私だって次の授業で使うのです」という権利があることを認めつつ、自分の気持ちも伝えてみるところに、違う立場、考え、感じ方の者同士のコミュニケーションの出発点があります。それはまた、自分を大切にしていよい権利（自己の尊厳を守る権利）、思ったことを伝えてよい権利（自己表現の権利）、違う感じ・考えを持ってよい権利（他者と違う権利）、失敗をしてもよい権利（ヒューマンエラーの権利）を支える、いわば人権を支えるコミュニケーションでもある、ということでした。

「私だけが厳しく批判される」「忙しいのに話がなかなか終わらない」「行きたくないのに

また誘われた」・・・いろいろな状況で、いかに怒らず素直に自分の気持ちを伝えるか。教員にとっても学生にとっても、Noを言うところから始まるコミュニケーションがあるのだと強く感じた2時間半でした。



演習に取り組む参加者

(文学研究科・文学部)

経済学研究科で韓国延世大学 韓 淳九 教授による セミナーを開催

7月28日(木)の午後4時30分から同6時の間、人文・社会科学総合教育研究棟W310教室において、長年経済学研究科の部局間交流協定校である韓国の延世大学商経大学の教授 韓淳九先生を講師に迎え、“Research on Korean Educational Changes”という題目でご講演いただきました。通訳なしの英語での専門的な講演としては比較的多い10名程度の参加者があり、活発な質疑応答がありました。

内容は韓国で頻繁に起こる、高校の入学制度や塾への規制といった制度の変更が、教育や住宅価格にどのような影響を与えたかについての4つの実証的な研究のご報告でした。日本以上

に受験競争の激しい韓国において、制度変更に対して人々がいかに敏感に反応するかを実証的に捉えた興味深い研究についてユーモアを交えながら分かりやすくお話しいただきました。それに加えて、高校や大学からは入手できない個人情報代わりに、間接的にデータを集める様々な工夫や努力についても詳しくご説明いただき、出席した研究者や学生にとって学ぶところの多い有意義なセミナーになりました。

本研究科での集中講義の合間をぬってのハードスケジュールにも拘わらず、講演だけでなく質疑応答にも熱心に対応していただいた韓先生には改めて心から感謝したいと思います。



韓先生講演風景



(経済学研究科・経済学部)

水産学部が函館港まつり「ワッショイはこだて」に参加

水産学部は今年も函館港まつり（8月1日（月）～8月5日（金）開催）「ワッショイはこだて」の堀川・五稜郭コースパレードに、8月3日（水）、地域連携活動の一環として参加しました。

この日は天候にも恵まれ、教職員や学生達約150名が参加し、函館名物の「いか踊り」を「いかぼっぽ」と歌いながら電車通りをところせましと飛び跳ねました。

いか踊りは今年31年目で、沿道には大勢の観客が詰めかけにぎわう中、今年から新しく作成した「北海道大学水産学部」の横断幕を掲げるとともに、桜井泰憲副研究院長や飯田浩二評議員をはじめ、参加者は鮮やかな水色のハッピーやTシャツ、そして様々な趣向を凝らした仮装に身を包み、本学部を十分にアピールしました。



パレード前の記念撮影



新しく作成した横断幕



歌い踊りながらのパレード



(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

「平成23年度薬用植物園見学会」を開催

薬学部附属薬用植物園(園長 小林淳一教授)では、7月9日(土)に一般市民、薬剤師、高校生、大学生、および本学職員を対象とした「平成23年度薬用植物園見学会」を開催しました。

当薬用植物園は、昭和31年に大学の研究・教育用の施設として設置されたもので、北方系薬用植物(ダイオウ、ゲンチアナ、ホッカイトウキ、センキュウなど)を含む数多くの薬用植物を栽培しています。薬用植物の蒐集、試作、および主要薬用植物の育種栽培試験を主な業務としていますが、一般市民の方々にも薬用植物に親しんでいただくために、毎年見学会を企画しており、好評をいただいています。

当日は、すばらしい晴天に恵まれ、札幌市内外から薬剤師9名を含む54名の方々にご参加いただきました。見学会は午前10時から約2時間行われ、薬学研究院天然物化学研究室の田中直

伸助教が各薬用植物にまつわるエピソードやその薬効、医薬品と薬用植物との関係について説明しました。参加者は、説明に熱心にメモをとり、実際に薬用植物を手にとって観察したり、匂いをかいだりして体感されていました。参加者の方々からは、「植物が薬のもとになることを知って驚いた。薬湯の匂いの正体が分かった。また来年も参加したい。」というご意見がありました。

薬学部附属薬用植物園では、今後も一般市民の方々に園内を随時公開することにより、薬用植物に触れていただくことの出来る機会を提供していきたいと考えています。最後に、今回の「薬用植物園見学会」の開催にあたり、多大なご協力をいただきました、本学総合博物館、日本生薬学会北海道支部、ならびに日本薬剤師研修センターの関係者の方々に深謝いたします。



ハッカを観察する見学者



トリカブトについての説明を聴く見学者

(薬学研究院・薬学部)

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ 「MISSION：遺伝子コードを解読せよ！」を開催

理学部生物科学科（高分子機能学）では平成19年度から毎年、ひらめき☆ときめきサイエンスを実施してきました。今年度は、7月30日（土）に、「MISSION：遺伝子コードを解読せよ！～PCRと電気泳動で米の品種を特定する～」と題し、高校生を対象に実施しました。参加者は高校生12名、保護者1名合わせて13名ありました。学科の研究室スタッフおよび7名の実施協力者（学部学生・大学院生）が、予備実験や研究体験指導の方法など事前準備をしっかりと行いました。

当日は、総合博物館前に午前9時30分に集合し、理学部5号館3階学生実験室へ移動しました。最初は自己紹介から始め、アイスブレイクを兼ねてクイズ形式で科学研究費の説明を行いました。全員に真新しい白衣を着用してもらい、安全講習および基本的な実験機器の使い方を説明しました。徐々に緊張がほぐれ、実験への集中力が増していき、初対面同士の仲間と協力し合い、高校生と支援にあたった大学院生との間で有意義なコミュニケーションを取ることができるようになっていきました。



高校生全員で白衣を着用して実験に臨む様子

プログラムの後半には高校生も実験操作に慣れてきたためか、将来の科学研究者を彷彿とさせる真剣な表情を随所に見せ、グループでの話し合いやプレゼンテーションも盛り上がってい

きました。このような科学の実体験を通して、本プログラムで掲げた目標に到達できたのかもしれないと感じさせられました。



実験結果を大学生と真剣に話し合う

その後のクッキータイムでは、研究室の学部学生・大学院生も合流し、進路相談や大学での過ごし方など、高校生の質問にフランクに答える光景が見られました。修了式では、実施代表者から未来博士号を授与しました。スケジュールの遅延がありましたが、参加者は時間いっぱいまで会話を楽しんでおり、とても有意義な企画でした。なお本プログラム実施の様子は、北海道新聞（7月31日朝刊）に掲載されました。また、本学オープンコースウェアでも動画公開される予定です。



修了式で未来博士号を授与

（理学院・理学研究院・理学部，生命科学院・先端生命科学研究院）

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ 「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”」を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、7月30日(土)に日本学術振興会の支援を受けて“ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～”「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”」を開催しました。これは、科学研究費補助金『若手研究(B)：胚乳由来の3倍体育成法の確立とインプリント遺伝子の解析による胚乳分化機構の解明(研究代表者：星野洋一郎)』による成果をもとに、体験的なプログラムで大学の最先端の科学に触れてもらおうという企画です。本センター生物生産研究農場で行いました。

中学生を対象に募集を行ったところ、20名の定員を上回る応募があり、開催の2週間前には締め切りとなってしまいました。当日は、28名の参加がありました。

午前は実際にフィールドに出て、6種類以上のベリーに触れ、食べ比べを行いました。特に北海道特産のハスカップは生の果実が出回ることがほとんどないので、新鮮な果実のおいしさに驚いていたようです。よく知られているカシスやラズベリーについても、木から採って生のものを食べる機会はよい経験になったのではないのでしょうか。ベリーはスグリ科、ツツジ科、バラ科、スイカズラ科など様々な植物が含まれること、食べ比べてみて分かる味の特徴など、実物を見て触れてそして味わう貴重な経験から学び得たことがあったと思います。



圃場で様々なベリーの食べ比べを行いました

その後、ブラックベリーとラズベリーを実際に交配させる品種改良に挑戦しました。雄しべから花粉を取り、雌しべの先に着ける作業を実際に行いました。花をじっくりと観察しないと雄しべと雌しべが区別できないのですが、集中力を発揮して楽しんで実験を進めることができたようです。この交配実験に使用した精密ピンセットは一人ひとりの名前をつけてプレゼントすることにしました。これからも大切に使用して自由研究を進めてほしいと思います。この交配実験の結果は、1ヶ月ほど経った後に結実した果実を参加者に送り、実際にオリジナル品種を栽培してもらう計画です。



ラズベリーとブラックベリーを交配し
オリジナル品種作出に挑戦しています

午後からはグループ分けを行い、「生きた花粉が伸びる様子をとらえよう」、「果実の糖度、pHを調べてみよう」、「パラピン紙で交配袋を作ってみよう」というテーマの実験をローテーションで行いました。盛りだくさんの内容でしたが、積極的に実験に取り組む姿が見られました。研究の楽しさやおもしろさが伝わったのでしょうか。この日のことが科学の芽となって育ってくれば嬉しく思います。

最後に記念撮影、クッキータイムでスタッフや新しく友達となった仲間同士で交流し、修了式で「未来博士号」を授与して解散となりました。生徒達の顔がより輝いているように見えました。

なお、実験に関する質問や栽培の仕方、交配した果実の生育具合など、ブログ形式で交流を続けています (<http://hoshiberry.exblog.jp/>)。最後に、本事業の開催には準備段階から支えてくれた事務職員・技術職員の皆さんと研究室の

学生メンバーの貢献が非常に大きかったことを記しておきたいと思います。参加してくれた皆さん、そしてスタッフのチームワークに感謝いたします。



最新の顕微鏡を操作して花粉管が伸びる様子を観察しました



ほかの花粉がかからないようにするために必要な交配袋作りを行いました

(北方生物圏フィールド科学センター)

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ 「小樽の海は今！～ゆたかな海の森をもとめて～」を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、7月30日(土)に日本学術振興会の支援を受けて、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催しました。これは、科学研究費補助金による研究成果(研究代表者:四ツ倉典滋)をもとに、大学で取り組まれている研究の一端に触れてもらうという児童・生徒へむけた体験型プログラムです。今回は小学5～6年生を対象に、「小樽の海は今！～ゆたかな海の森をもとめて～」をテーマとして忍路臨海実験所で実施しました。

参加者は27名で、地元小樽市や札幌市のみならず、石狩市や長沼町、遠くは日高の様似町からも集まりました。午前中は、「海の砂漠化が進む小樽の海の現状と、海の森(コンブの森)の保全について」の講義を行った後、参加者は小グループに分かれて磯船に乗り込み、箱メガネを使って実際に海の中を観察しました。海中一面に広がるサンゴモ平原とそこに暮らす多数のウニを目の当たりにして、「北海道沿岸の海

の中」=「豊かなコンブの森」をイメージしていた多くの子供たちは驚きの様子でした。そのあとは磯を歩きながら、わずかに残るコンブの森の生態調査と環境測定、そして海藻採集を行いました。日ごろ磯では魚介類に目を奪われがちなお子様たちも、この時ばかりは色鮮やかな海藻類を詳しく観察していました。



海藻の採集

昼食後は2班に分かれ、一方は午前中に採水した海水の分析作業を、もう一方は午前中採集した海藻の同定作業と押葉標本づくりを交互に課題としました。同定の結果、午前中のわずか1時間程度の磯歩きにもかかわらず23種の実藻が採集され、砂漠化が進行する殺風景な海中にも多様な実藻が生育していることが理解できました。なお、押葉標本は参加小学生の夏休み自由研究の提出用として丁寧に作製されていました。最後にまとめとして、「小樽の海の水質と、そこに暮らすさまざまな実藻類について」の解

説を行い、参加者に“未来博士号”を授与しました。

今回、船上から海の中を熱心に覗き込む子供たちの様子がとても印象的でした。コンブの森の保全にむけて、各自ができることを考えるよい機会になったのではないのでしょうか。

このプログラムは主催関係者の強いチームワークのもとで実施されました。当日の円滑な進行と、安全の確保にご尽力いただいた教職員、および大学院生諸氏に感謝いたします。



コンブとともに



海水の分析



標本の作製

(北方生物圏フィールド科学センター)

北海道大学納骨堂慰霊式

医学研究科及び歯学研究科では、8月3日（水）午前11時から北海道大学納骨堂（豊平区平岸）において、医学及び歯学研究のため尊い御遺体をささげられた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、山口佳三理事・副学長，玉木長良医学研究科長，小林清一保健科学研究院長，川浪雅光前歯学研究科長ら27名が参列し，参列者全員による黙とう及び献花を行い，厳粛のうちに慰霊式が終了いたしました。



黙祷を捧げる参列者



献花をする山口理事・副学長

（医学研究科・医学部）



工学部で「平成23年度救急救命講習会」を開催

工学部では、7月12日(火)に財団法人札幌市防災協会の指導の下、救急救命講習会を開催しました。

講習会には、教職員15名が参加し、のどを詰まらせた人への対処法、止血法、心肺蘇生法およびAED(自動体外式除細動器)使用法等について、実技を交えて行われました。講習中には、平成22年に改訂された心肺蘇生法の国際ガイドラインに基づく指導に対し、参加者より意外な点等について質問がなされるなど、救急救命に対する関心の高さがうかがえました。

また、終了後には「実際に要救助者を発見した場合、予備知識が無いとパニックになってしまうと思うが、講習会を受講することにより完璧ではないが多少は冷静でいられると思うので、とても有意義だったと思う。」といった意見が寄せられました。

工学部では平成23年度の計画として、既設している8台のAEDに加えて1台を高層階に増設する予定です。これにより全部で9台のAEDが設置されることになり、当初からのコンセプトである『工学部のどこにいても要救助者を発見してから5分以内にAEDの設置場所と現場を往復できる』体制が整います。

また、工学系事務部経理課安全衛生管理担当では、現在、総務省消防庁からの通達により実施(運営は消防本部)されている「上級救命講習」の受講者を3名配置していますが、今後、さらに「応急手当普及員講習」の受講者を1名配置することにより、非常時に迅速に対応できる体制を整える予定です。



のどを詰まらせた人への対処法



心肺蘇生法とAED使用法の同時実技訓練

(工学院・工学研究院・工学部)

北海道大学病院薬剤部・薬学部合同セミナー 「災害派遣を経験して～医療チームにおける 病院薬剤師の役割」を開催

7月25日（月）、薬学研究院臨床講義室において、北海道大学病院薬剤部と薬学部の合同セミナーを開催しました。

このセミナーは、3月11日（金）に起きた東日本大震災において北海道大学病院が、東北地方（岩手県・陸前高田市）に医療チームを派遣した際の報告会として、災害医療にどのように関わるべきかを考える機会として、職員、学生を対象に開催されました。

当日は、北海道大学医療チームの薬剤師メンバーとして実際に現地に派遣された立場から、北海道大学病院薬剤部副部長の山田武宏准教授、また薬学研究院臨床薬学研究室の小林正紀助教、同薬剤分子設計学研究室の山田勇磨助教の3名の先生に、また、北海道大学病院に残って現地の薬剤師・医療チームの活動をサポートした立場から、北海道大学病院の深井敏隆薬剤部副薬剤部長にそれぞれお話をいただきました。

最初に、「東日本大震災における薬剤師の支援活動 ～バックアップ体制～」との演題にて深井薬剤部副薬剤部長よりお話をいただきました。北大医療チームが被災地への派遣に至るまでの経緯、北大病院に残って現地での医療活動をバックアップするために努められた内容について、詳しく話していただきました。地震により製薬工場が被災し、医薬品供給制限が発動となりましたが、そのような状況下で、医療チームならびに北大病院での医薬品在庫の確保に努められた点や、薬剤部内での業務分担体制の変更などの種々の対応についてお話をいただきました。

次いで、実際に現地に派遣され、医療救護活動を経験した薬剤師としての立場から、3名の先生にお話をいただきました。山田准教授からは、計10人派遣された薬剤師による被災地での

活動の総括をしていただきました。特に、災害下の特殊な状況において、大学や実務実習で学んでいる通常の薬剤師業務とはどのような点が異なったのかなど、現地に行かなければ知り得ない事を中心に話していただきました。薬学研究院の教員として、また病院では診療補助従事者として薬剤師業務にも従事されている小林助教、山田助教のお二人は、後半時期に被災地に派遣されており、現地での医療活動に参加して感じたこと、また、北大医療チームから次の自治体医療チームを経て最終的に現地の医療体制へ引き継ぐ重要な時期に関わったこと、感じたことを中心にお話をいただきました。

被災地での活動は、電気がない、パソコンが使えない、自動的にチェックしてくれるシステムがない、プリンタがないなど全て手書きで処方に関する情報が伝達される、といった特殊な状況であり、薬剤師としての職能が試される場でもありました。

本セミナー当日は薬学部の学生の参加者も多く、薬剤師を目指している彼らにとっては、貴重な機会となったと思われます。



深井薬剤部副薬剤部長の講演を聴く参加者

（北海道大学病院、薬学研究院・薬学部）

北海道大学病院で「第45回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施

北海道大学病院では、8月4日(木)、『第45回ふれあいコンサート 七夕の夕べ』を開催しました。患者サービス推進委員会が中心となって色々な企画をしていますが、今年もよさこいソーラン演舞、ボランティアの方々が加わった縁日コーナーと盛りだくさんの内容となりました。会場のアメニティホールをはじめ、病院の各所に笹飾りが飾られ、「早く退院できますように」などの患者さんや職員の願いが込められた短冊が、涼やかな雰囲気を醸し出していました。

コンサートは、浴衣姿の司会者のもと、福田論病院長の挨拶で開幕しました。「北海道大学

縁」「平岸天神」によるよさこいソーラン演舞の披露では、息のあったエネルギッシュな踊りに会場は大変な熱気に包まれ、R&B歌手のKarani(カラニ)の力強さと哀愁の調和した歌声には多くの方が魅了されていました。初の趣向となる「オーロラダンス上映」では、スクリーンに映し出された極北の夜空の美しさに、あちこちで感嘆の声が上がりました。

川畑いづみ看護部長の挨拶で、今年のコンサートは幕を閉じました。北大病院の夏の風物詩として、夏の一夜のコンサートは定着しています。



開会の挨拶をする福田病院長



大人気の縁日コーナー



「北海道大学 縁」の演舞



「平岸天神」の演舞



オーロラダンス上映



閉会の挨拶をする川畑看護部長

(北海道大学病院)

歯学研究科で第1回消防訓練を実施

歯学研究科（大学病院歯科診療センターを含む）では、7月12日（火）に札幌市北消防署の立会いの下、消防訓練を実施しました。

訓練は、歯学研究科A棟2階応接室からの出火を想定し、学生・職員（大学病院職員を含む）等約100名が参加して行われました。

火災発生後、直ちに鈴木邦明歯学研究科長による自衛消防隊長の指揮により、「通報連絡係、避難誘導係、消火係」の各担当に分散して、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難者誘導、消火活動等実践さながらの訓練が行われました。

訓練終了後、札幌市北消防署員から、避難訓練については、良好であったとの講評がありました。

鈴木研究科長からは「マニュアルどおりには進まないで、日々訓練を思い出して行動をして欲しい」及び中村太保副病院長（自衛消防副隊長）から「避難状況の報告がスムーズでよかった」との挨拶がありました。

避難訓練終了後、消火器（水消火器）を用いた消火訓練が行われ、消火器の取り扱い方法を確認することができました。



避難状況を消防職員へ報告



中村自衛消防副隊長への避難状況報告

(歯学研究科・歯学部)

総合博物館 カルチャーナイト2011に参加 「チェンバロと星空の夕べ」を開催

総合博物館では、平成16年度から毎年カルチャーナイトに参加しています。カルチャーナイトとは、札幌の夏の一夜、文化施設などを夜間開放し、市民の方々に地域の文化を楽しんでいただくイベントです。

今年は7月15日(金)に開催され、当館では開館時間を夜9時まで延長して展示を公開しました。また、「チェンバロと星空の夕べ」という企画を実施し、当館のチェンバロ・ボランティアによるポプラチェンバロの紹介と演奏、4Dシアターボランティアによるオリジナル・プログラム「立体映像で宇宙(ほしぞら)散歩」「天かける単身赴任-織姫星と彦星」「宇宙で育つ水の結晶」「銀河だって進化!?! その歴史、覗いちゃう??」の上演、北大天文同好会によるプラネタリウムの上映、札幌星仲間による夏の星座の観望会を行いました。

今年のチェンバロ演奏会は、企画展示「Lepidoptera(レピドプテラ)空を舞う昆虫

たち チョウとガの世界」の展示会場で、世界の蝶に囲まれた中、開催されました。曲目もA.カンブラ「かわいい蝶よ」やD.スカラッティ「恋する蝶のように」など、蝶を題材としたものが多く、趣のある演奏会となりました。

整理券を配ってプログラムを上映する4Dシアターとプラネタリウムは大盛況で、整理券の配布時間には行列ができ、早い段階で配布終了になる回もありました。どちらもお子さんを連れの方が多く、大変賑わっていました。

博物館前で開催された夏の星座の観望会は、曇天ということもあり、星の代わりに木の枝や博物館のレリーフを見ることにし、札幌星仲間の方々に望遠鏡の操作方法を教えてもらいました。星空を満喫することはできませんでしたが、子供も大人も、夢中で望遠鏡を操作しました。

今年のカルチャーナイトも、閉館間際まで来館者が絶えず、盛況のうちに終了しました。



チェンバロ演奏会の様子



夏の星座の観望会の様子

(総合博物館)

企画展示「Lepidoptera 空を舞う昆虫たち チョウとガの世界」を開催

総合博物館では7月2日（土）から10月2日（日）まで、第74回企画展示「Lepidoptera 空を舞う昆虫たち チョウとガの世界」を開催しています。開幕に先立ち、7月1日（金）午後にはオープニングセレモニーが開かれ、津曲敏郎館長、山口佳三理事・副学長、今回展示されている標本コレクションをご寄贈くださった日本鱗翅学会会員の青山慎一氏よりご挨拶をいただき、3氏によるテープカットが行われました。会場は総合博物館1階の「知の交流・統合コーナー」および3階「企画展示室」の2会場になります。

4億年の昆虫の歴史の中で、もっとも進化した種のひとつが「レピドプテラ（りんとく鱗翅目）」です。レピドプテラ（鱗翅目）とは、翅に鱗をもった昆虫のことで「チョウとガ」が含まれます。企画展示では通常展示していない約2万点のチョウとガの大変貴重な標本が並べられており、レ

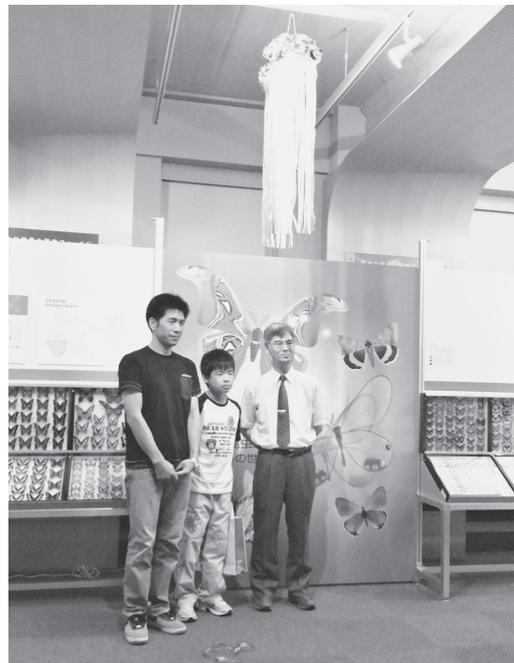
ピドプテラの多様性を体感できる展示スペースとなっています。大きな翅で空を舞う「チョウとガ」、レピドプテラが進化してきた道筋を他昆虫と比較しながら展示します。

レピドプテラには、アゲハチョウやモンシロチョウ、ミノムシのようになじみ深い昆虫も多く含まれます。カイコは絹をつくりだす昆虫で昆虫産業の中心的存在。マイマイガやヨトウガ、アメリカシロヒトリは人に害をあたえる衛生害虫、農業害虫です。世界に約50万種と言われるレピドプテラの種多様性と人との関わりを紹介します。

また本学では、レピドプテラに関する生物学（分類、系統、遺伝子）が研究されてきました。その研究の系譜とコレクションも紹介しています。8月1日（月）には入場者が1万人に達し、1万人目の来場者となった親子に津曲館長からオリジナルグッズが贈られました。



展示解説を行う大原昌宏教授



入場者1万人記念セレモニーの様子

（総合博物館）

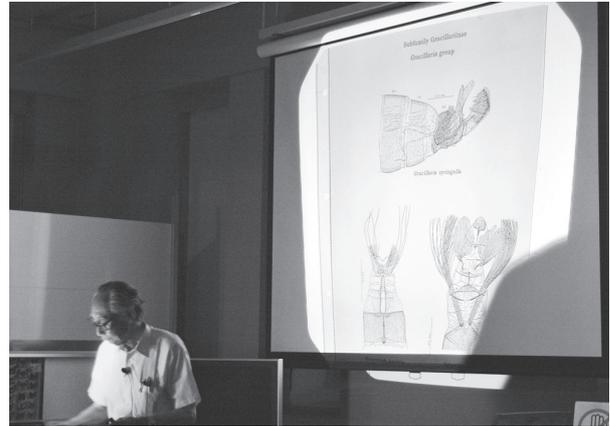
総合博物館で土曜市民セミナー 「葉に潜る昆虫—ホソガ」を開催

総合博物館では、7月9日(土)に農学部元教授の久万田敏夫氏を講師に迎え、土曜市民セミナー「葉に潜る昆虫—ホソガ」を開催しました。

久万田氏は、平成8年に退官されるまで本学大学院農学研究科において昆虫学の教育・研究に従事され、多くの昆虫研究者を育ててこられました。特に鱗翅目^{りんしもく}ホソガ科の分類学的研究では世界的権威であり、平成12年には米国に本部がある鱗翅目研究者協会(The Lepidopterists' Society)よりカール・ジョウダン・メダル賞を日本人で初めて受賞されています。

講演では、ホソガ科の分類学的方法論とその実際の研究内容について詳しくお話しいただきました。体長5ミリ程度の小型のガの研究は、採集の山歩きから顕微鏡下の解剖まで、いかに体力と気力と繊細な手先の器用さが必要か、80名ほどの参加者の皆さまからも驚きの声があがっていました。講演の後は、企画展示室で実際の標本や研究用の道具を見ながら、ご説明をいただきました。

本土曜市民セミナーは、7月2日(土)～10月2日(日)の間、総合博物館において開催の企画展示「Lepidoptera 空を舞う昆虫たち チョウとガの世界」の関連イベントの一つとして開催されました。本展示も大変ご好評いただき、たくさんの方にご来場いただいています。



講演の様子



展示解説する久万田講師(中央)

(総合博物館)

星野勇三・星野達三旧蔵資料を大学文書館で受贈

7月19日(火)、大学文書館では、星野精一氏から、「星野邸」(札幌景観資産第12号)で大切に保管されてきた星野勇三・星野達三旧蔵資料をご寄贈いただきました。

星野勇三(1875-1964)は1875(明治8)年山形県に生まれ、荘内中学校・北鳴中学校を経て、1894(明治27)年札幌農学校予科に入学、1901(明治34)年札幌農学校本科を第19期生として卒業しました。卒業後は、コーネル大学等の欧米留学(1903~1907年)を経て、母校の教授として果樹園芸学の研究・教育に携わりました。その一方で、山形県出身者の学生寮「札幌荘内館」(現在の札幌荘内寮)の創設・運営にも従事し、大通公園(札幌市)の花壇設計や日和山公園(酒田市)の設計も行いました。

星野達三(1913-1997)は、星野勇三・いはゑ夫妻の三男として生まれ、1937(昭和12)年北海道帝国大学農学部農学科を卒業しました。卒業後は、北海道農業試験場において稲の品種改良・優良新種の育成研究に従事し、北海道の稲作についての著述を多数残しています。星野勇三・達三父子は、八紘学院(後の学校法人八紘学園北海道農業専門学校)の学院長、理事長・学校長も務め、農業教育にも尽力しました。

この度、受贈した資料は、①写真帖・写真(1880年代~)、②受講ノート、③卒業論文原稿、④証書類(卒業証書、学位記など)、⑤書簡、⑥旧蔵書(1870年代~、札幌農学校在学・教官時代の参考文献、同窓生の出版物など)、⑦札幌荘内寮関係資料などの19箱のほか、墨蹟・扁額(星野勇三揮毫)、胸像2点(星野勇三、W.S.クラーク)、油彩画5点(肖像画、農場、植物園

風景画)など多彩な資料群です。写真帖には、有島武郎・森本厚吉・森廣など札幌農学校第19期生たち、山形県出身の学生たち、欧米留学、遊戯会、修学旅行、寄宿舎、農業実習、卒業記念写真など、大学沿革史にとって大変貴重な写真が多数貼付されています。



星野勇三(札幌農学校寄宿舎にて、1901年)

今後、大学文書館では、歴史資料として活用されるよう、大切に整理・保管していきます。

(大学文書館)

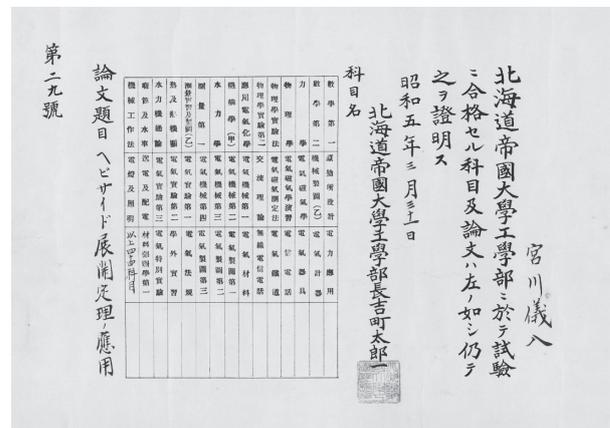
宮川儀八旧蔵資料を大学文書館で受贈

8月3日(水)、大学文書館では、大嶋邦廉氏(工学部1962卒)より、宮川儀八(大嶋邦廉氏の義父)の旧蔵資料をご寄贈いただきました。

宮川儀八(1904-2001)は、北海道庁立札幌第一中学校を経て、1924(大正13)年北海道帝国大学予科に入学、1927(昭和2)年に工学部へ進学し、1930(昭和5)年工学部電気工学科を第3期生として卒業しました。専攻を活かして卒業後は北海道配電株式会社(北海道電力株式会社の前身)に就職しました。

この度、ご寄贈いただいた資料は、写真帖「昭和五年第三回卒業記念 北海道帝国大学工学部電気工学科」1冊と、「卒業証書」(札幌第一中学校/1924年3月)、「予科修了証書」(北海道帝国大学/1927年3月)、「試験合格科目・論文題目証明書」(北海道帝国大学工学部/1930年3月)、「学士試験合格証書」(北海道帝国大学/1930年3月)の証書4点です。

「試験合格科目・論文題目証明書」には、「熱及熱機関」、「電気磁気学」、「電気鉄道」、「送電及配電」、「電灯及照明」など、電気工学系の全44科目の修学記録が見られます。電気工学科卒業記念の写真帖では、工学部の各教室の講義・実験風景、教官・学生の肖像写真が貼付されおり、工学部(白聖館)、医学部附属医院、正門(移設前、現在の南門)、エルムの鐘、エルムの森、クラーク像など、1920年代後半の北大キャンパスの風景写真が彩りを添えています。



試験合格科目・論文題目証明書



白聖館の前庭にて

戦前期における工学部学生の在学・卒業関係資料は、保存されているものが少ないため、ご寄贈いただいた資料は非常に貴重なものです。大学文書館では大切に保管し、今後、展示等を通じて紹介していきます。

(大学文書館)

お知らせ

被扶養者の要件の確認を行います

「被扶養者の要件の確認」を本年9月中に行います。

「被扶養者の要件の確認」は、「国共法施行規則（組合員証の検認等）第92条第1項 組合は、毎年、財務大臣の定めるところにより、組合員証の検認又は更新をしなければならない。」より、毎年が削除され、読み替えられたものです。（施行年月日：平成22年4月1日）

また、「被扶養者の要件の確認」は組合員証（被扶養者の認定があるもの）、遠隔地被扶養者証又は船員組合員被扶養者証の交付を行った組合員に対して行います。

ついては、被扶養者申告書と認定されている被扶養者の認定条件に必要な添付書類を提出願います。

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。

また、今回の「被扶養者の要件の確認」から、今まで添付書類が必要なかった給与規程上の扶養親族である所得が無い配偶者についても所得（課税）証明書〔市町村交付〕を提出願います。

なお、「被扶養者の要件の確認」の詳細は各学部等の共済事務担当係にお問い合わせください。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

レクリエーション

平成23年度学内バレーボール大会の開催

職員レクリエーション行事の一環として例年実施しているバレーボール大会が7月19日（火）から8月3日（水）までの2週間にわたり、第2体育館において開催されました。

今年度は参加者に若手職員が多い活気のある大会となりました。中には登録選手の平均年齢が30歳を下回るチームもあり、世代交代を感じました。

なお、結果は以下のとおりです。北キャン町内会が2年連続の優勝です。

【大会結果】

- 優勝 北キャン町内会
 - 準優勝 北方生物圏フィールド科学センター
 - 第3位 理学・生命科学事務部
 - 第4位 北大病院
- （詳細は次頁）



優勝：北キャン町内会

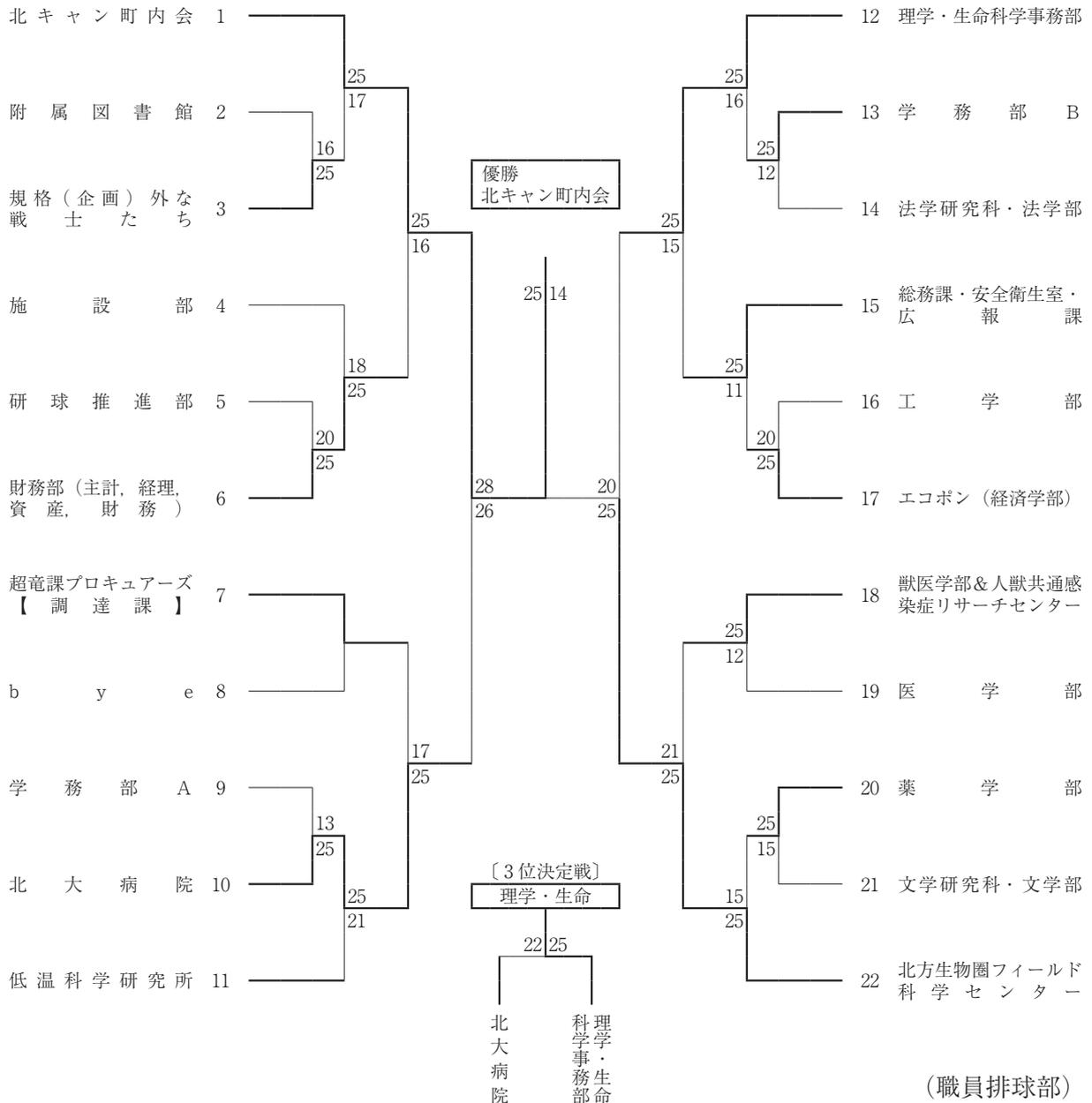


準優勝：北方生物圏フィールド科学センター



第3位：理学・生命科学事務部

平成23年度学内バレーボールトーナメント表



平成23年度学内職員バドミントン大会(個人戦)の開催

平成23年度学内職員バドミントン大会(個人戦)が、7月4日(月)から12日(火)まで、第2体育館において開催され、総勢104名が参加し、熱戦が繰り広げられました。
 なお、試合結果は次のとおりです。

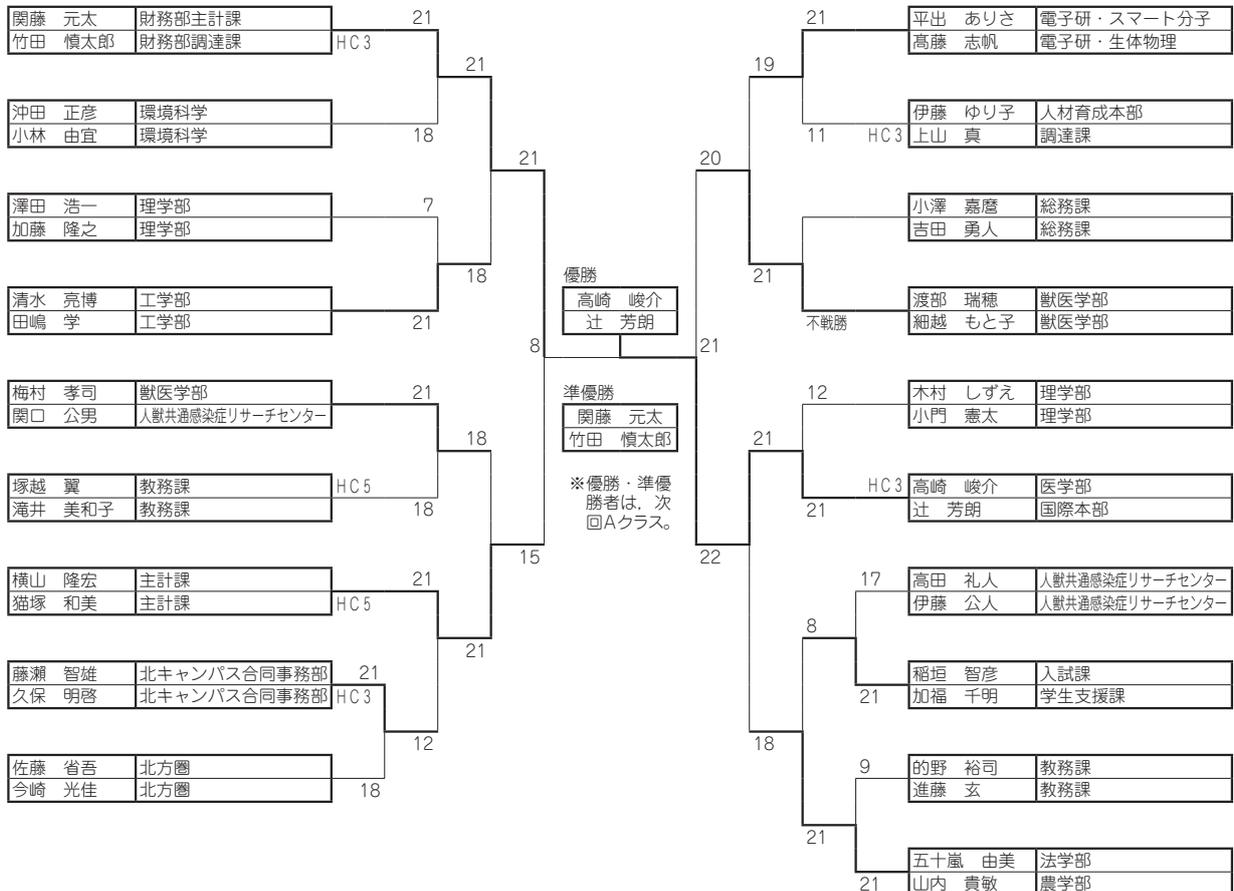
平成23年度学内職員バドミントン大会(個人戦)対戦表

Aクラス

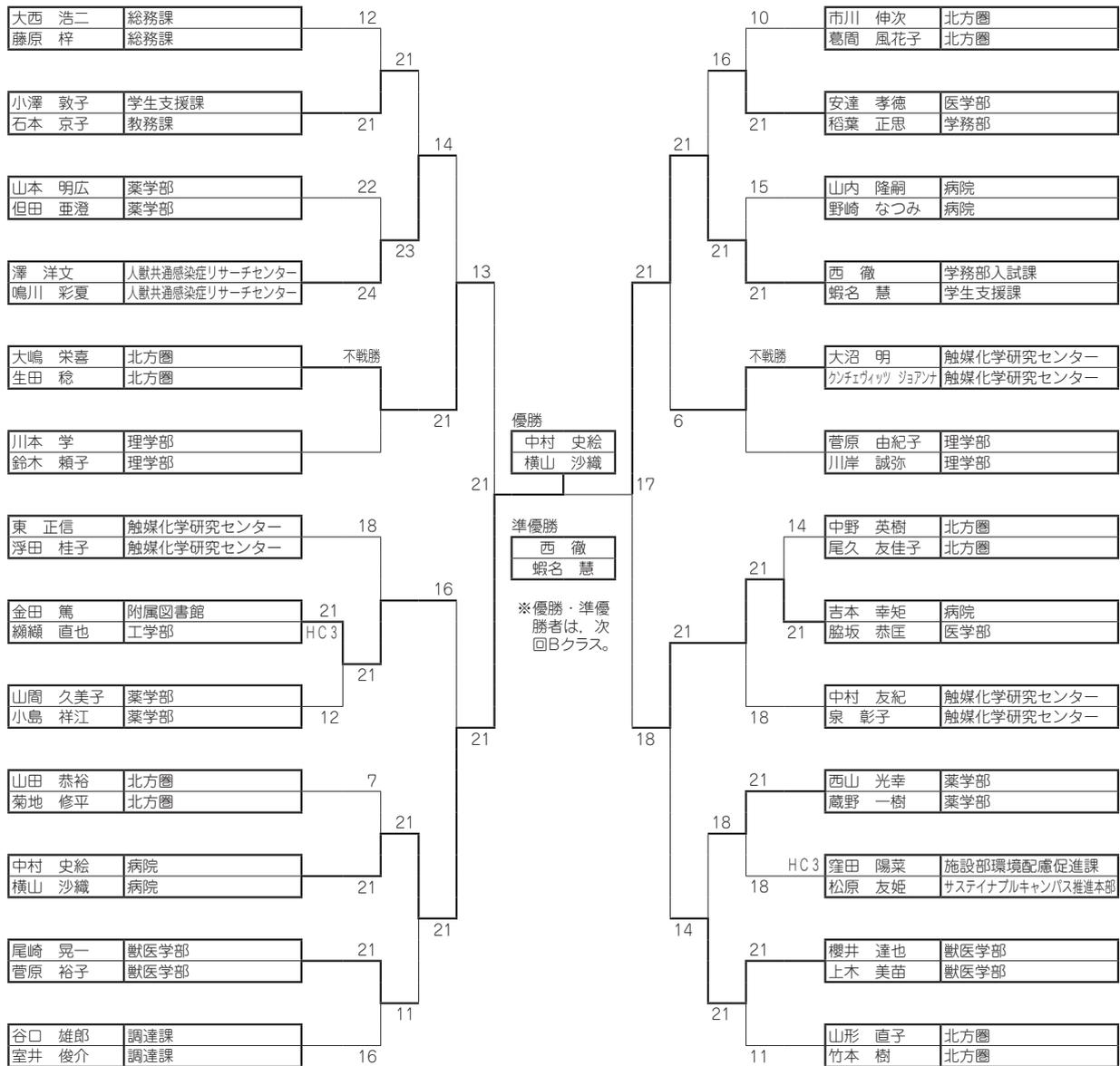
NO	氏名	所属	HC	1	2	3	順位
				岩淵 良二郎 小田桐 誠	柴田 仁 勝山 憲明	原田 直基 越前 圭五	
1	岩淵 良二郎	財務部経理課	7	○	× 19-21	× 16-21	3
	小田桐 誠	財務部調達課					
2	柴田 仁	総務企画部広報課	10	○ 21-19	○	○ 21-17	1
	勝山 憲明	総務企画部企画課					
3	原田 直基	総務企画部企画課	7	○ 21-16	× 17-21	○	2
	越前 圭五	総務企画部企画課					

※HC(ハンディキャップ)は、対戦相手ペアに与えるポイントです。
 ※試合は、対戦相手ペアのHCと相殺されたポイントからスタートします。

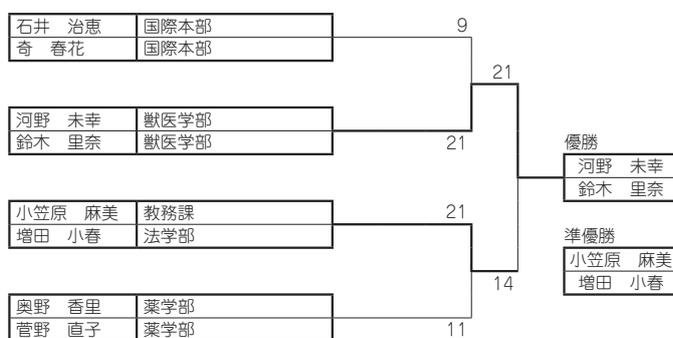
Bクラス



Cクラス



Dクラス



(北大職員バドミントン部)

教職員テニス大会の開催

●ダブルス大会

職員硬式庭球同好会主催による学内ダブルス大会が7月2日（土）に、工学部・農学部・低温科学研究所の各コートで行われました。

参加者は総勢42名で、結果は次のとおりです。

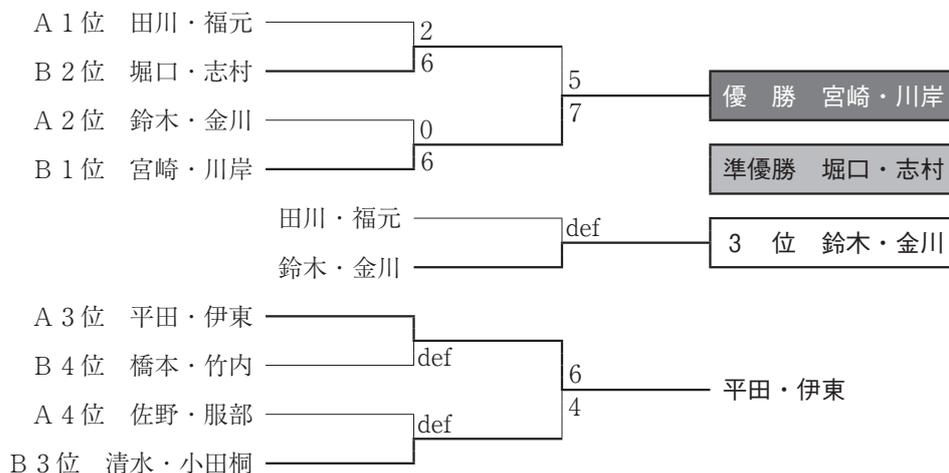
【男子A級】 7月2日（土） 会場：工学部コート

Aブロック

	平田 伊東	鈴木 金川	佐野 服部	田川 福元	勝：負 順位(得ゲーム率)
平田 康史(電) 伊東 弘行(工)		5-7 ×	4-6 ×	6-4 ○	1-2 3 (15/32=0.468)
鈴木 真也(産連) 金川 眞行(北キャン)	7-5 ○		(10)7-6(8) ○	3-6 ×	2-1 2 (17/34=0.5)
佐野 嘉拓(農) 服部 英(触)	6-4 ○	(8)6-7(10) ×		2-6 ×	1-2 4 (14/31=0.451)
田川 諭(事) 福元 彰(工)	4-6 ×	6-3 ○	6-2 ○		2-1 1 (16/27=0.592)

Bブロック

	堀口 志村	橋本 竹内	宮崎 川岸	清水 小田桐	勝：負 順位
堀口 敬(工) 志村 和紀(工)		6-4 ○	1-6 ×	6-1 ○	2-1 2
橋本 哲也(北方) 竹内 康浩(文)	4-6 ×		3-6 ×	3-6 ×	0-3 4
宮崎 晃太郎(触) 川岸 誠弥(理)	6-1 ○	6-3 ○		6-1 ○	3-0 1
清水 泰貴(工) 小田桐 誠(事)	1-6 ×	6-3 ○	1-6 ×		1-2 3



【男子B・C級】 7月2日(土) 会場：農学部コート

		今田 山田	竹下 松田	黒井 鈴木	的野 進藤	久保 高山	菊地 市川	佐藤 中野	勝：負 順位(得ゲーム率)
B級	今田 純一(事) 山田 恭裕(北方)		3-4 ×	4-0 ○	4-1 ○	4-3 ○	4-0 ○	4-0 ○	5-1 1(23/31=0.74)
	竹下 欣吾(事) 松田 拓巳(事)	4-3 ○		4-1 ○	4-0 ○	2-4 ×	4-1 ○	4-0 ○	5-1 2(22/31=0.70)
C級	黒井 和典(理) 鈴木 敦生(理)	0-4 ×	1-4 ×		4-1 ○	3-4 ×	4-0 ○	4-0 ○	3-3 4
	的野 裕司(事) 進藤 玄(事)	1-4 ×	0-4 ×	1-4 ×		1-4 ×	4-3 ○	2-4 ×	1-5 6
	久保 明啓(北キャン) 高山 大樹(文)	3-4 ×	4-2 ○	4-3 ○	4-1 ○		4-1 ○	4-0 ○	5-1 3(23/34=0.67)
	菊地 修平(北方) 市川 伸次(北方)	0-4 ×	1-4 ×	0-4 ×	3-4 ×	1-4 ×		1-4 ×	0-6 7
	佐藤 浩幸(北方) 中野 秀樹(北方)	0-4 ×	0-4 ×	0-4 ×	4-2 ○	0-4 ×	4-1 ○		2-4 5

B級優勝 今田・山田

C級優勝 久保・高山

B級準優勝 竹下・松田

C級準優勝 黒井・鈴木

【女子A級】 7月2日(土) 会場：低温科学研究所コート

		山間 小針	三浦 小野田	坂本 猫塚	藤井 柏原	勝：負 (ゲーム数)
山間 久美子(薬) 小針 布実子(理)			2-6 ×	(3)6-7(7) ×	6-3 ○	1-2 3
三浦 千穂(工) 小野田 実由紀(工)	6-2 ○			2-6 ×	6-1 ○	2-1 2
坂本 ゆう子(歯) 猫塚 和美(事)	(7)7-6(3) ○	6-2 ○			6-2 ○	3-0 1
藤井 恵美子(法) 柏原 麻美(病)	3-6 ×	1-6 ×	2-6 ×			0-3 4

優勝 坂本・猫塚

準優勝 三浦・小野田

【女子C級】 7月2日(土) 会場：低温科学研究所コート

葛間 風花子(北方)
高桑 皓子(北方)尾久 友佳子(北方)
今崎 光佳(北方)1
6

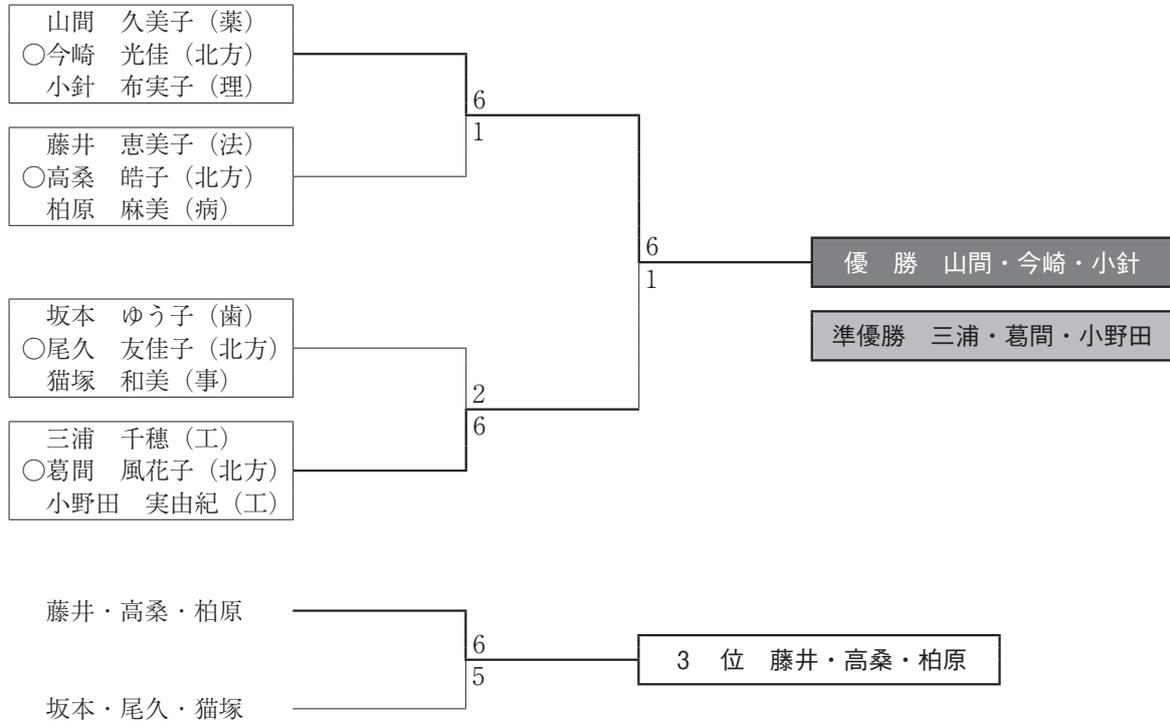
優勝 尾久・今崎

【女子交流トーナメント】 7月2日（土） 会場：低温科学研究所コート

3人1チームによるトーナメント

対戦は1ダブルスで行う（3人から2人選んで試合に出場）

名前に○が付いている選手は全試合出場



●シングルス大会

職員硬式庭球同好会主催による学内シングルス大会が、8月6日（土）に工学部・農学部・低温科学研究所の各コートで行われました。

最高気温31度の猛暑の中、参加者は総勢28名で、結果は次のとおりです。

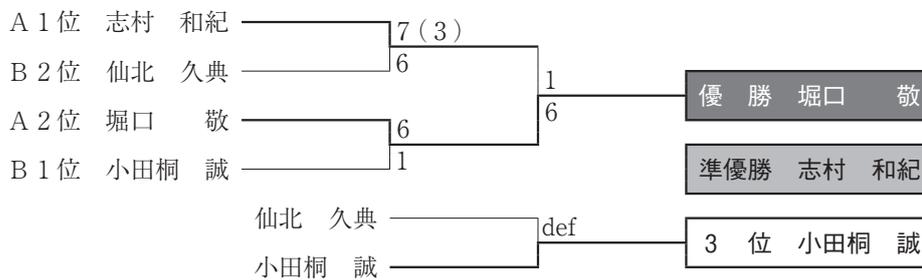
【男子A級】 8月6日（土） 会場：工学部コート

Aブロック

	堀 口	志 村	田 川	佐 藤	吉 竹	勝：負 順 位
堀口 敬 (工)		2 - 6 ×	6 - 2 ○	6 - 5 ○	6 - 1 ○	3 : 1 2
志村 和紀 (工)	6 - 2 ○		6 - 0 ○	6 - 4 ○	6 - 3 ○	4 : 0 1
田川 諭 (事)	2 - 6 ×	0 - 6 ×		1 - 6 ×	5 - 6 ×	0 : 4 5
佐藤 博 (事)	5 - 6 ×	4 - 6 ×	6 - 1 ○		6 - 4 ○	2 : 2 3
吉竹 忍 (図)	1 - 6 ×	3 - 6 ×	6 - 5 ○	4 - 6 ×		1 : 3 4

Bブロック

	金川	仙北	伊東	清水	小田桐	勝：負 順：位
金川 眞行(北キ)		5-6 ×	6-4 ○	6-3 ○	5-6 ×	2:2 3
仙北 久典(工)	6-5 ○		6-4 ○	6-2 ○	3-6 ×	3:1 2
伊東 弘行(工)	4-6 ×	4-6 ×		6-3 ○	3-6 ×	1:3 4
清水 泰貴(工)	3-6 ×	2-6 ×	3-6 ×		0-6 ×	0:4 5
小田桐 誠(事)	6-5 ○	6-3 ○	6-3 ○	6-0 ○		4:0 1



【男子B級】8月6日(土) 会場：農学部コート

【予選リーグ】

Aブロック

	今田	大嶋	鈴木	勝：負 順：位
今田 純一(事)		5-6 ×	4-6 ×	0:2 3
大嶋 栄喜(北方セ)	6-5 ○		4-6 ×	1:1 2
鈴木 敦生(理)	6-4 ○	6-4 ○		2:0 1

Bブロック

	工藤	加藤	中鉢	勝：負 順：位
工藤 元義(病)		4-6 ×	6-1 ○	1:1 2
加藤 公洋(事)	6-4 ○		6-5 ○	2:0 1
中鉢 健太(工)	1-6 ×	5-6 ×		0:2 3

Cブロック

	山田	高山	竹下	勝：負 順：位
山田 恭裕(北方セ)		1-6 ×	4-6 ×	0:2 3
高山 大樹(文)	6-1 ○		6-5 ○	2:0 1
竹下 欣吾(事)	6-4 ○	5-6 ×		1:1 2

Dブロック

	中野渡	市川	久保	勝：負 順：位
中野渡 拓也(低)		6-1 ○	6-3 ○	2:0 1
市川 伸次(北方セ)	1-6 ×		4-6 ×	0:2 3
久保 明啓(北キ)	3-6 ×	6-4 ○		1:1 2

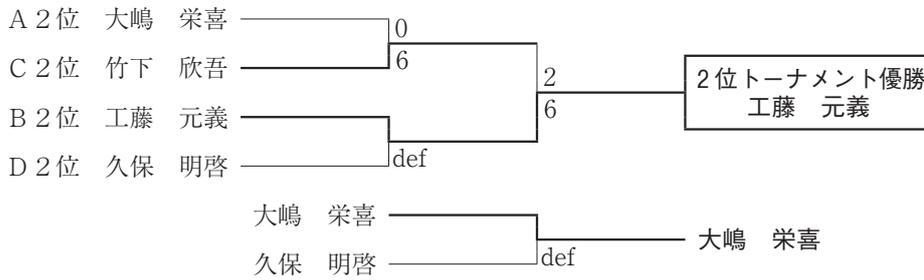
【順位トーナメント】

1位トーナメント

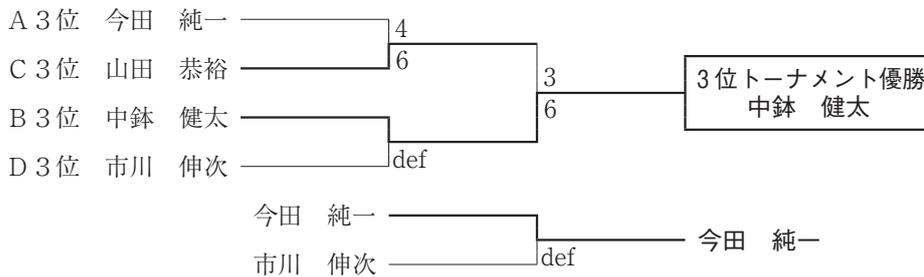


レクリエーション

2位トーナメント



3位トーナメント



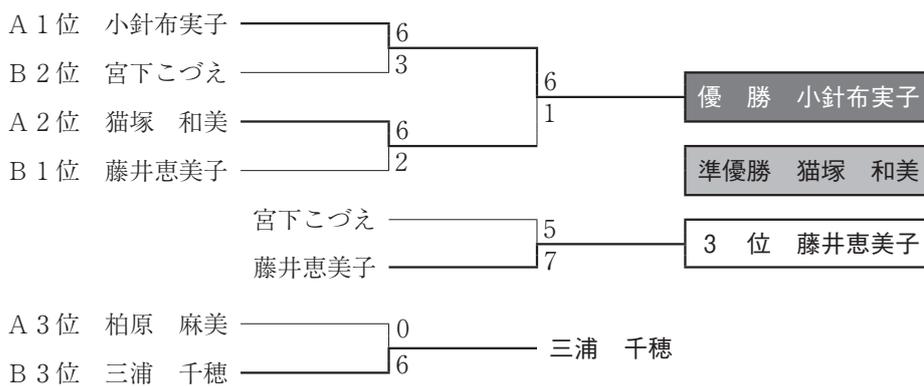
【女子A級】 8月6日(土) 会場：低温研コート

Aブロック

	猫塚	柏原	小針	勝：負 順 位
猫塚 和美(事)		6-1 ○	4-6 ×	1:1 2
柏原 麻美(病)	1-6 ×		0-6 ×	0:2 3
小針 布実子(理)	6-4 ○	6-0 ○		2:0 1

Bブロック

	藤井	三浦	宮下	勝：負 順 位
藤井 恵美子(法)		6-0 ○	6-2 ○	2:0 1
三浦 千穂(工)	0-6 ×		5-7 ×	0:2 3
宮下 こづえ(獣)	2-6 ×	7-5 ○		1:1 2



(職員硬式庭球同好会)

研 修

研 修 名 (主催部局名)	開催期間	開催場所	研 修 目 的
平成23年度国立大学法人北海道 大学会計実務研修 (財務部主計課)	第1回 平成23年6月28日 ～平成23年6月29日 第2回 平成23年7月28日 ～平成23年7月29日 第3回 平成23年8月1日 ～平成23年8月2日	第1回 北海道大学 百年記念会館大会議室 第2・3回 北海道大学 学術交流会館第4会議室	本学の会計事務を担当する若手職員の育成に重点を置き、本学の会計制度等に関する基本的な知識を習熟させ、会計担当職員としてのスキルアップを図ることを目的とする。



研修の様子 (調達事務手続きについて)



グループワーク演習 (旅費について)

研 修 名 (主催部局名)	開催期間	開催場所	研 修 目 的
平成23年度北海道地区国立大学 法人事務情報化講習会 (ACCESS初級) (情報環境推進本部情報推進課)	平成23年7月25日 ～平成23年7月26日	北海道大学 情報基盤センター南館	北海道地区国立大学法人の事務職員に対して、業務システムのデータを、Accessを利用して活用するための基礎知識並びに基本的な情報セキュリティ等の基礎知識を習得することを目的とする。



講習会の様子

表 敬 訪 問

〈国内〉

月 日	来 訪 者
23. 7. 21	根岸英一 触媒化学研究センター特別招へい教授 (米国パデュー大学特別待遇教授)



根岸英一 触媒化学研究センター特別招へい教授
(右から2番目)

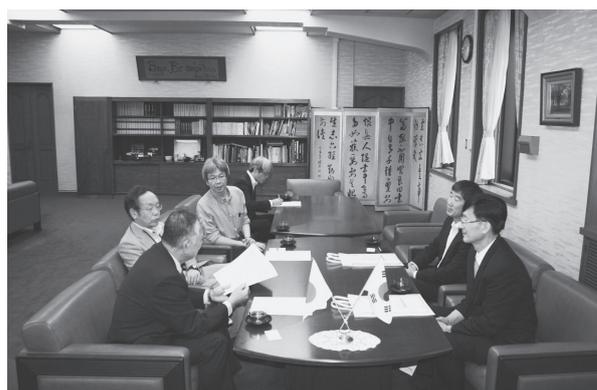
(総務企画部広報課)

〈海外〉

月 日	来 訪 者	目 的
23. 7. 8	駐日英国特命全権大使 David Warren 氏	両国の交流に関する懇談
23. 7. 19	韓国海洋大学校工科大学学部長 Il-Dong Choi 氏	両大学の交流に関する懇談



駐日英国特命全権大使 David Warren 氏 (中央),
杉野目浩 名誉教授 (左)



韓国海洋大学校工科大学学部長 Il-Dong Choi 氏 (右端)

(国際本部国際連携課)

諸会議の開催状況

役員会 (平成23年7月11日)

議 案・新規海外オフィスの設置について

- ・平成23年度「大学の世界展開力強化事業」への申請について

協議事項・寄附講座等の今後の取扱いについて

報告事項・事前伺い（農学部農業工学科の名称変更・獣医学部共同獣医学課程の設置）の結果について

- ・今夏の節電対策について
- ・環境負荷低減推進員の配置について

教育研究評議会 (平成23年7月21日)

報告事項・事前伺い（農学部農業工学科の名称変更・獣医学部共同獣医学課程の設置）の結果について

- ・創成研究機構グリーン・イノベーション研究推進センターの設置について
- ・大学間交流協定の新規締結等について
- ・ソウルオフィスの開所式について
- ・平成22年度決算について

役員会 (平成23年7月25日)

議 案・寄附講座等の今後の取扱いについて

- ・平成23年度中期目標達成強化経費第三次決定事業について

協議事項・名誉学位の授与について

報告事項・全学運用教員の実施状況の報告について

- ・障害者の雇用状況等について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

学 内 規 程

北海道大学工学部受託材料試験に関する規程を廃止する規程

(平成23年7月15日海大達第160号)

本学工学部において受託材料試験が行われなくなったことから、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(平成23年8月1日海大達第161号)

本学創成研究機構共用機器管理センターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成23年8月1日海大達第162号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学附属図書館利用規程の一部を改正する規程

(平成23年8月1日海大達第163号)

本学附属図書館本館の新営工事による自動化書庫の設置及び閲覧個室の廃止に伴い、所要の改正を行ったものです。

人 事

平成23年7月4日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 財務省	中 山 厚	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

平成23年7月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 (転出) 総務省	生 沼 裕 寺 田 文 彦	総務省大臣官房付 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
【技術職員】 (辞職)	樋 口 佳 那 子	北海道大学病院看護部看護師

平成23年7月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	伊 藤 侯 輝 黒 嶋 伸 一 郎	大学院医学研究科助教 大学院歯学研究科助教
【技術職員】 (辞職)	大 関 香 織 古 舘 馨 池 添 摩 美 橋 本 麻 里 香 吉 川 菜 美 阿 部 和 美	北海道大学病院看護部助産師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 保健センター看護師

平成23年8月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 総合博物館教授 (転出) 公正取引委員会	大 原 昌 宏 寺 川 祐 一	総合博物館准教授 大学院法学研究科教授
【講師】 大学院医学研究科講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師	山 田 俊 剛 犬 飼 剛 岡 田 啓 嗣 岡 本 博 史 柏 木 淳 一 倉 持 寛 太 幸 田 圭 一 齋 藤 秀 之 佐 野 雄 三 佐 原 健 豊 実 山 豊	大学院医学研究科助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院農学研究院講師	高 牟 禮 逸 朗	大学院農学研究院助教
大学院農学研究院講師	山 本 忠 男	大学院農学研究院助教
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター講師	若 生 幸 也	採用
【助教】		
大学院医学研究科助教	橋 本 直 樹	採用
人獣共通感染症リサーチセンター助教	大 西 なおみ	採用

新任教授紹介

平成23年7月15日付

公共政策学連携研究部 附属公共政策学研究センター教授に

おいぬま ゆたか
生沼 裕 氏



(公共政策研究部門)
最終学歴
東京大学法学部卒業
(平成元年3月)
専門分野
公共経営・地方行財政
改革

平成23年8月1日付

総合博物館教授に

おおはら まさひろ
大原 昌宏 氏



(研究部資料基礎研究系)
生年月日
昭和36年12月9日
最終学歴
北海道大学大学院農学
研究科博士後期課程単
位修得退学
(平成3年3月)
博士(農学)(北海道大学)
専門分野
昆虫分類学

言 報

名誉教授 ^{いけがみ}池上 ^{じろう}二良 氏 (享年91歳)



名誉教授 池上二良氏は、7月15日、満91歳をもってご逝去されました。

池上先生は、大正9年5月15日長野県に生まれ、昭和19年9月東京帝国大学文学部言語学科を卒業、同大学院に入学後、

昭和20年7月同大学文学部副手、同年10月同大学大学院特別研究生、同26年4月群馬大学学芸学部助教授を経て、同39年4月北海道大学文学部教授に就任し、言語学講座を担当されました。昭和59年4月2日停年により退官、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。本学退官後は同年4月札幌大学女子短期大学部教授となり、平成3年3月停年により退職しました。

この間、昭和51年から同59年までの8年間にわたり、北海道大学文学部附属北方文化研究施設長を併任し、同施設の管理運営に尽力するとともに、同52年には同施設斜里分室の設置に力をそそぎ、北方民族文化研究の発展の基礎を築きました。また、昭和52年4月から同55年1月までの約3年間にわたり、北海道大学評議員を併任し、大学の管理運営にも貢献されました。

研究面にあっては、北東アジア諸言語の調査研究に従事し、なかでも入念な文献研究とフィールド調査を基礎としてツングース諸語の研究を大きく前進させました。特に文献資料による満州語音韻研究、及びサハリン(樺太)のウイльта語の音韻論・形態論に関する先駆的かつ精緻な分析と記述により、ツングース語研究者として国際的な評価を得ました。また、ツングース諸語の比較研究を推進し、他のアルタイ諸語や日本語およびアイヌ語を含む北東アジア諸言語との関係についても数々の重要な知見をもたらしました。こうした永年にわたる国際的な研究活動に対し、平成14年に常置国際アルタイ学会(Permanent International Altaistic Conference)から金メダルを授与されました。これは当該分野において国際的にきわめて権威ある賞です。

一方、20年にわたる北海道大学文学部及び同大学大学院文学研究科における教育活動を通して、多数の研究者や教育関係者を育てています。また学会活動においても、日本言語学会評議員・特別顧問、北海道方言研究会顧問など長く指導的な立場を務め、その薫陶を受けた者は全国に及んでいます。

永年にわたるご指導に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(文学研究科・文学部)

〈編集メモ〉

▼今年の緑のビアガーデンは、天候に恵まれたこと、メニューの見直しや値下げによりお値打ち感が出たこと、早めの広報を行ったことなどの相乗効果からか、昨年よりも多くの市民の方に「静かで落ち着いた雰囲気の中でビールを味わって」いただくことができました。

毎年、この緑のビアガーデンの開催時期に合わせて静岡県から来道されるご夫妻には、今年もお越しいただき、お二人は、4日間の期間中、毎日、定位置となっている場所で楽しんでおられました。お話を伺ったところ、今年で5回目の参加とのこと、「来年もまた来ます！」とのお言葉を残して帰っていかれました。

また、女子会をする方も多く見かけましたが、なかでも、お子さん同伴の女子会では、お母さんたちは話で盛り上がり、子供さんたちは今年から登場した「緑日コーナー」を楽しんでいる様子でした。

多くの市民の皆様に、様々なかたちで緑のビアガーデンを楽しんでいただくことができ、北大を少しでも身近に感じていただけるイベントになってきた感がしています。

▼リテラポプリ45号が9月16日(金)に発行予定です。特集は「北大は薬学で生命と向き合う」。世界に貢献する薬のエキスパートたちの研究テーマや成果をじっくりとわかりやすく紹介していますのでぜひご覧ください。



2009. 5. 30 北大天塩研究林

北の息吹㊟ テシオコザクラ (*Primula takedana*)

生育地が道北の蛇紋岩地帯と石灰岩地帯に限定されており、特に北大天塩研究林に多いという意味で、オオバナノエンレイソウと並んで北大を代表する花であろう。同様な場所に生えるテシオソウは、大型のオゼソウと同一種との見解が一般的になったようなので、北大の花とは言い難い。国内の白いサクラソウは3種あり、本種と早池峰山のヒメコザクラは共に超塩基性岩地帯に分布しているが、花が平開するヒメコザクラと違って本種は平開しない。東北地方の日本海側高山にあるヒナザクラは、花を斜めに開いて分布域が広く、月山などでは雪田跡にイワイチョウと混合した大群落を作って見事な景観を呈する。

前理事・副学長 岡田 尚武

北大時報 ㊟ August 2011 No.689 平成 23 年 8 月発行

北海道大学総務企画部広報課

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/